

大淀川水系河川整備基本方針

大淀川水系の流域及び河川の概要（案）

令和 年 月

国土交通省 水管理・国土保全局

目 次

	頁
第1章. 流域の自然条件	1
1-1 河川・流域の概要	1
1-2 地形	3
1-3 地質	3
1-4 気候・気象	5
第2章. 流域及び河川の自然環境	6
2-1 流域の自然環境	6
2-2 河川及びその周辺の自然環境	8
2-3 特徴的な河川景観や文化財等	20
2-4 自然公園等の指定状況	27
第3章. 流域の社会状況	30
3-1 人口	30
3-2 土地利用	31
3-3 産業・経済	32
3-4 交通	33
第4章. 水害と治水事業の沿革	35
4-1 既往洪水の概要	35
4-2 治水事業の沿革	53
4-3 流域治水対策の取組	55
第5章. 水利用の現状	58
5-1 水利用の変遷と現状	58
5-2 渇水被害と渇水対応の現状	59
5-3 水利用に係る今後の方向性	61

目 次

	頁
第6章. 河川の状況と水質	62
6-1 河川流況	62
6-2 河川水質	63
第7章. 河川空間の利用状況	66
7-1 河川の利用状況	66
7-2 高水敷地の利用状況	68
7-3 内水面漁協	69
第8章. 河道特性	70
8-1 河道の特性	70
8-2 河床変動の経年変化	72
第9章. 河川管理の現状	77
9-1 河川管理区間	77
9-2 河川管理施設	79
9-3 水防体制	80
9-4 危機管理の取組	83
第10章. 地域との連携	89

第1章 流域の自然条件

1-1 河川・流域の概要

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、岩瀬川等を合わせ東に転流して宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる流域面積2,230km²、幹川流路延長107kmに及ぶ九州屈指の河川である。

その流域は、宮崎県の南西部に位置し、鹿児島、熊本、宮崎の三県にまたがり、6市6町1村が含まれ、社会、経済、文化の基盤を成しているとともに、流域の一部が霧島錦江湾国立公園、九州中央山地国立公園の指定を受けるなど自然環境や景観も特に優れていることから、本水系に対する治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

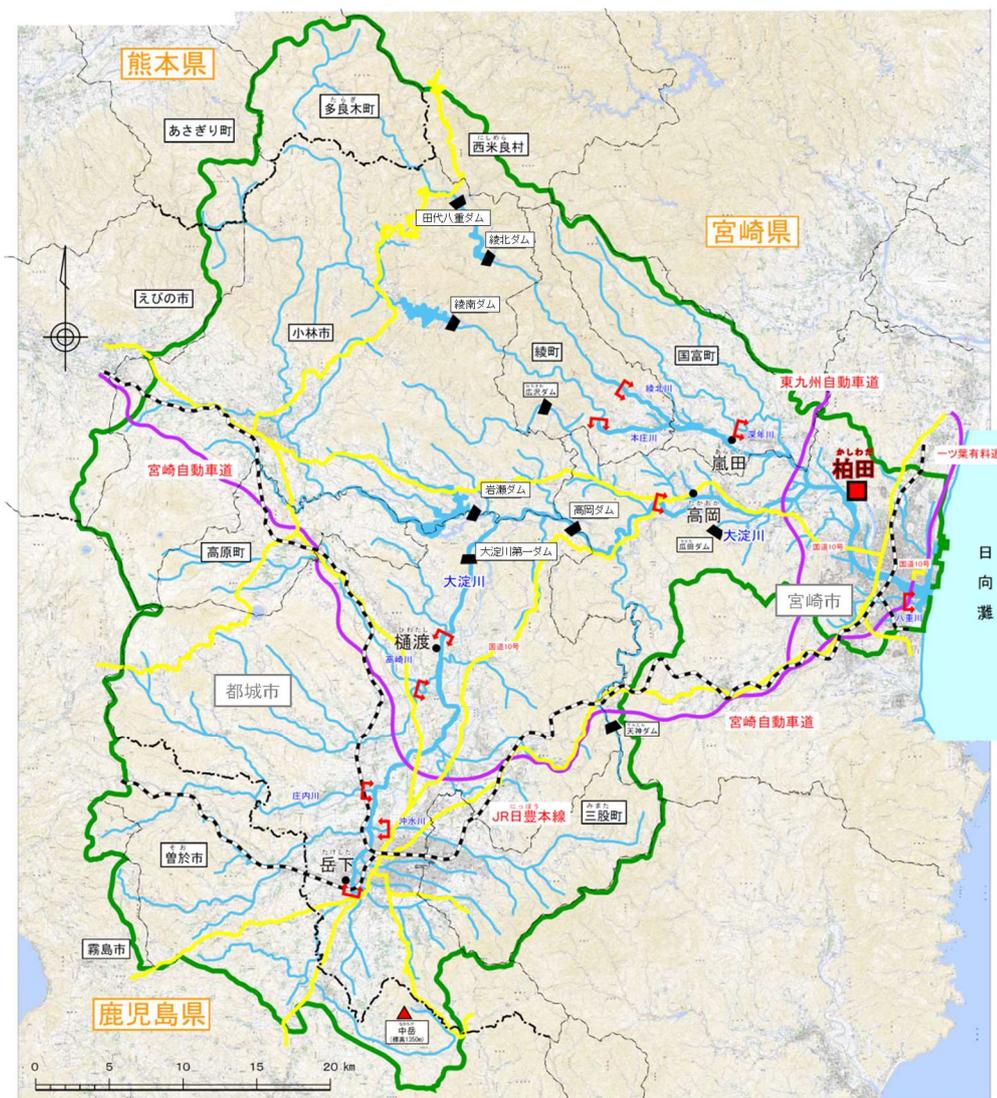


図1-1 大淀川水系流域図



◀ 源流部

スギ・ヒノキ等の人工林で覆われた源流部。

上流部 ▶

周辺の山々に囲まれて上流域を形成している都城盆地。



◀ 中流狭窄部

都城盆地と宮崎平野の間に位置し、日向山地と鱈塚山地に挟まれた中流域狭窄部。

下流（河口）部 ▶

沖積平野と洪積台地からなる、都市化の集中する下流域宮崎市街部。



1-2 地形

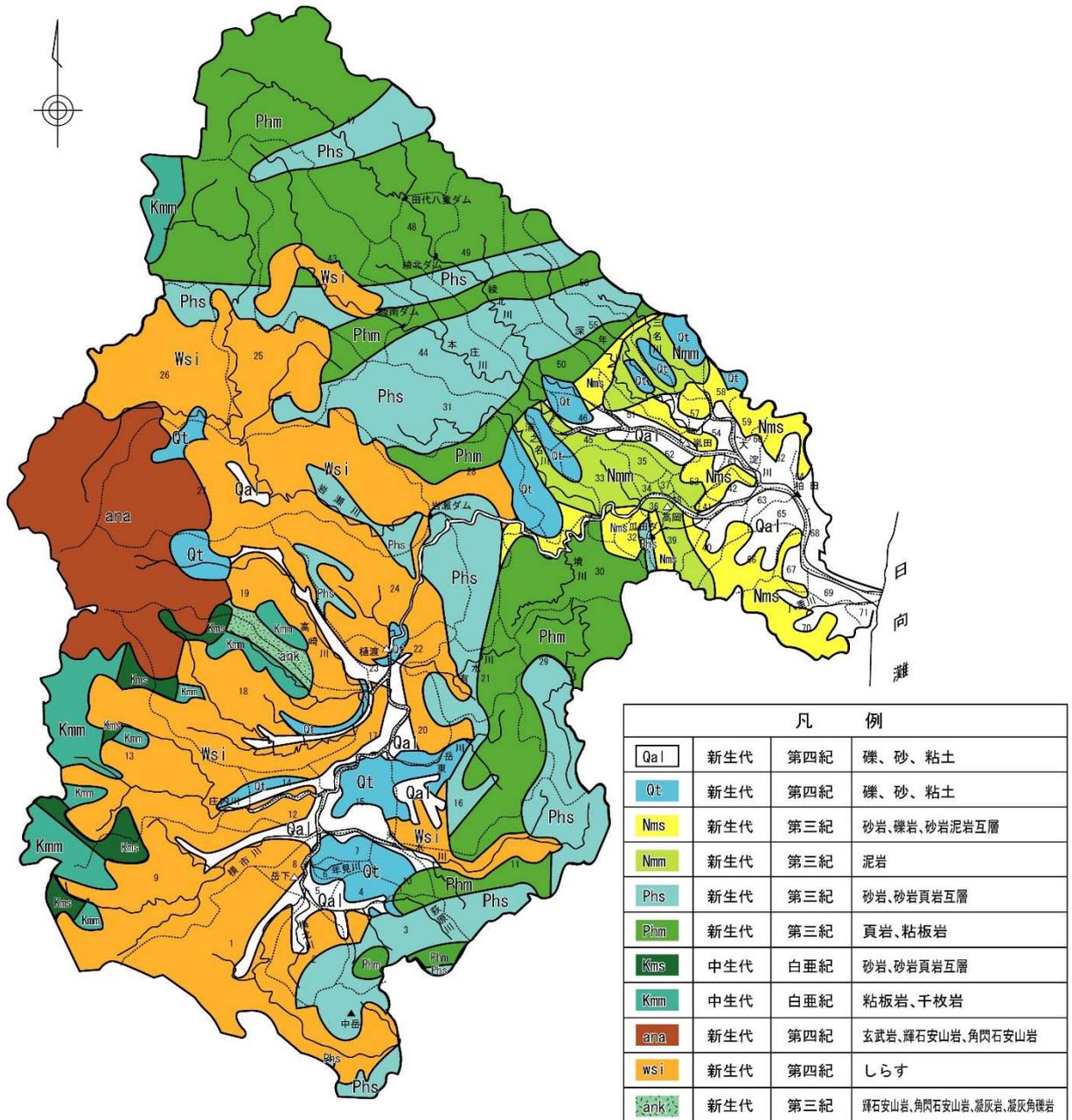
大淀川流域は東西約55km、南北約70kmで、やや不規則な扇状を呈し、日向山地と鱈塚山地に挟まれた中流狭窄部とその上流域と下流域に分けられる。上流域の都城市を中心とした盆地は、鱈塚山地と霧島火山部との間にあり、かなり広い段丘と沖積地とが発達している。大淀川は、その盆地内を流れる諸支川を合流して北流する。中流域は、轟付近から日向山地と鱈塚山地とが狭まる山間地の狭窄部に入り、宮崎市高岡付近において宮崎平野に入る。

下流域は広い沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成しており、北西から流下する本庄川を合流し、日向灘に注いでいる。

1-3 地質

大淀川流域の地質は、源流部では中生代の四万十累層群が400m内外の山地を形成しているが、都城盆地は第三紀から第四紀にかけて霧島火山群が噴火した際に陥没して形成されたと言われ、その盆地底には沖積層が発達しているが、大部分は厚い火山灰で覆われ、この地域でシラスと呼ばれる軽石の粉末、安山岩の破片、礫等からなる地層を成している。この盆地に流入する諸支川及び岩瀬川はいずれも火山灰地帯を流れ河岸に沿って狭長な沖積層が見られ、宮崎市高岡町から下流にいたっては第三紀層が見られ、各所が火山灰を被っている。

一方、本庄川の綾北川合流点より上流及び綾北川は、中生代の四万十累層群からなる険しい山岳の間を流れ、両川の合流点から下流に至り平地に出ている。図1-2でも明らかな様に、都城市付近のほか、広い範囲にわたりシラス層が分布している。



出典) 「九州地方土木地質図
(九州地方土木地質図編纂委員

図1-2 大淀川流域地質図

1-4 気候・気象

大淀川流域の気候は下流域が南海型気候、上流域（本庄川流域含）が山地型気候に属し、海岸地方では年平均気温が18℃程度であって、日本で最も温暖な地帯に属している。しかし、山沿いの地方では年平均気温が16℃程度となり、霧島山系のえびの高原では冬季の最低気温が氷点下20℃以下に下がることもある。

大淀川流域年平均降水量は2,700mm程度であり、鰐塚山地や日向山地等は3,000mmを超える多雨地域となっている。月別では6月～7月の梅雨期及び8月～9月頃の台風期に集中しており、特に台風が本流域に与える影響は大きく、既往の大出水のほとんどが台風によるものである。

気候区分図

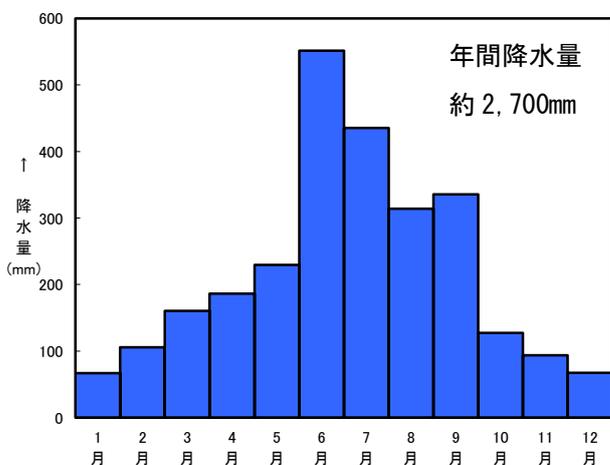
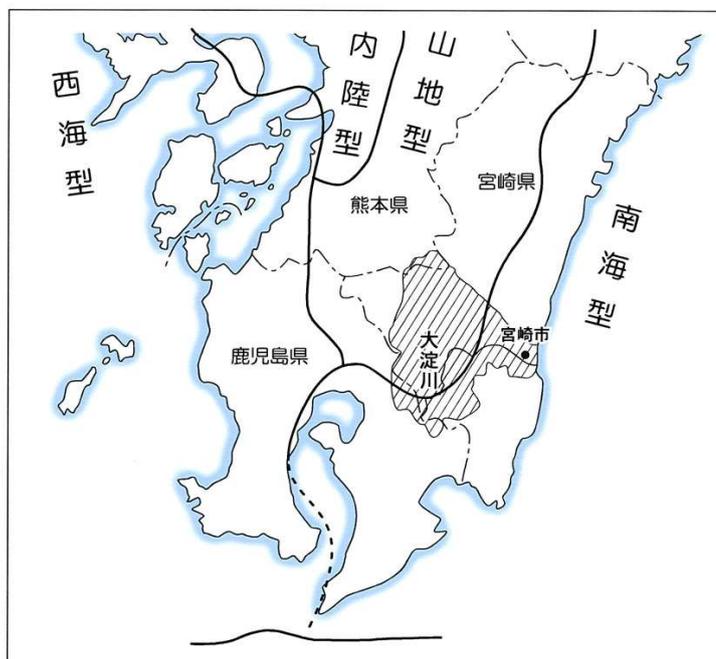


図1-3 月別降水量 (1990～2022年の平均)

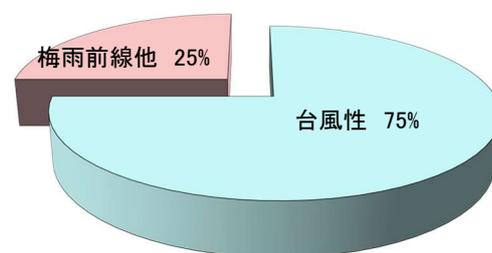


図1-4 洪水要因比較図
(流量 (1961～2022年) の上位 20 洪水)

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、東に転流し岩瀬川等を合わせて宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる。その流域は、中流狭窄部を境として都城盆地を中心とする上流部、宮崎平野を中心とする下流部に大別される。

流域の地質等は、上流部は東は鰐塚山系、西は霧島火山部に挟まれ、火山灰土が広く分布しており、各支川はほぼ東西より本川に合流して都城盆地を形成している。中流部は狭谷状を成しており、地質は泥熔岩及びシラスである。下流部は沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成している。

当流域は、南九州の多雨地域に位置し、さらに上流域の都城盆地を形成しているシラス土壌に起因して豊富な水量に恵まれ、既存の各種用水については安定供給されている。

このような大淀川の流域には、それぞれの流域の気候風土に順応した多種多様な環境が形成され、それに伴う動植物も多数生息している。

源流から都城盆地に至る上流部は、ほとんどがシラスによって形成された谷底平野が広がる市街地と田園地帯を緩やかに流下する。河床は砂礫層から成り、瀬には絶滅危惧種のオオヨドシマドジョウ、ヨシノボリ類、オイカワ、淵にはコイ等が生息・繁殖し、高水敷のオギ群落等の草地には絶滅危惧種のギンイチモンジセセリ等の陸上昆虫類、カヤネズミが確認されている。

日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部の中流部は、自然林と人工林が混在する険しい地形の中を瀬と淵を交互に形成しながら流下する。河岸は広葉樹林や竹林等の河畔林が形成されている。

宮崎平野が広がる下流部最上流端付近の山付き区間は、スタジイ等の照葉樹林が分布する。流れが穏やかでやや深い淀みを有する汽水域には、多くの稚魚の生息場所となるコアマモ群落が分布し、その周辺には、国内固有種で宮崎県のほか、一部の地域でしかまとまった数が確認されていない絶滅危惧種のアカメが生息・繁殖する。河口周辺の砂浜では絶滅危惧種のアカウミガメの産卵が見られ、タブノキ等の河畔林で囲まれた丸島と呼ばれる中州では、クロサギ等のサギ類や、絶滅危惧種のみさご等多くの鳥類が生息している。

最大支川の本庄川流域は、四万十累層群に覆われた急峻な地形を有し、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、九州屈指の清流となっている。平野部に入ると蛇行が大きく、広い低水敷に形成されたワンド・たまり等の水際には、ササバモや絶滅危惧種

のミズキンバイ等の水生植物が生育し、絶滅危惧種のみなみメダカ等の魚類にとって良好な生息・繁殖環境を創出している。

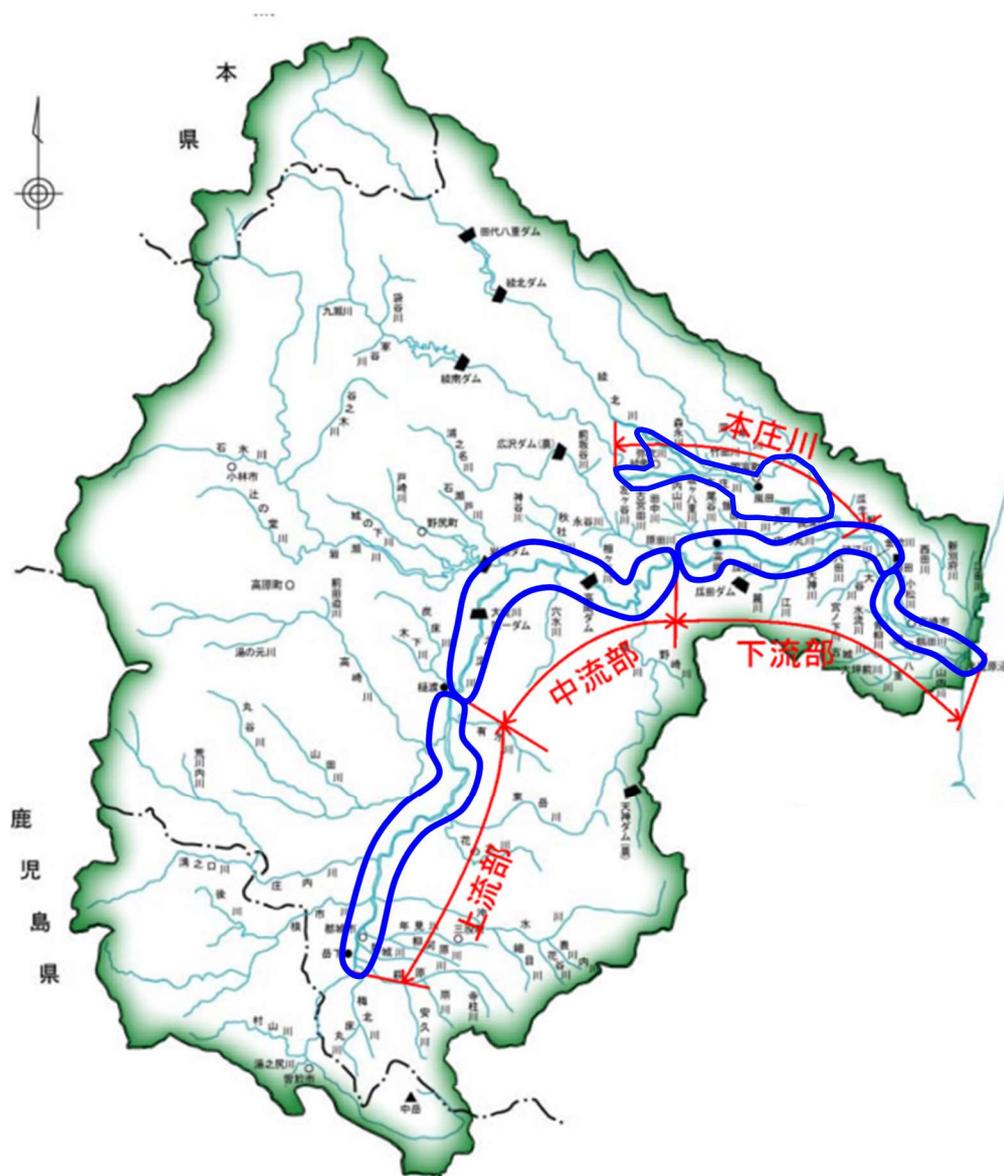


図2-1 大淀川流域区分図

2-2 河川及びその周辺の自然環境

1) 上流部

源流から都城盆地に至る上流部は、ほとんどがシラスによって形成された谷底平野が広がる市街地と田園地帯を緩やかに流下する。河畔林及び土の剥き出しとなっている自然河岸にカワセミやヤマセミが見られ、メダケ等の竹林はサギ類の集団ねぐらとなっている。河床は砂礫層から成り、瀬には絶滅危惧種のオオヨドシマドジョウ、ヨシノボリ類、オイカワ、淵にはコイ等が生息・繁殖する。自然裸地（礫河原）にはイカルチドリが生息している。高水敷には分布の南限にあたるコウヤワラビが生育しているほか、オギ群落等の草地には、絶滅危惧種のギンイチモンジセセリ等の陸上昆虫類、カヤネズミ等が生息・繁殖し、絶滅危惧種のゴマクサ等の明るい湿地環境を好む植物も生育する。



カワセミ



コイ



カヤネズミの球巢
(県：準絶滅危惧)



ゴマクサ
(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：準絶滅危惧)

2) 中流部

日向山地と鱒塚山地に挟まれた山間狭窄部の中流部は、自然林と人工林が混在する険しい地形の中を瀬と淵を交互に形成しながら流下する。河岸は広葉樹林や竹林等の河畔林が形成されている。瀬にはアユ、淵にはカワアナゴ等が生息・繁殖する。河岸の樹林内にはコゲラ等が生息し、礫河原にはカジカガエル等が生息・繁殖する。



アユ



カワアナゴ
(県：準絶滅危惧)

3) 下流部

(1) 大淀川

宮崎平野が広がる下流部における最上流端付近の山付き区間は、絶滅危惧種のガンゼキラン等の希少な植物も生育するスタジイ等の照葉樹林が分布する。その下流は、瀬や淵が交互に見られ、瀬にはアユの産卵場が多数存在し、淵や流れの緩やかなワンド・たまりにはカワアナゴ、コイ等が生息・繁殖する。下流部における中～下流区間の水際には絶滅危惧種のタコノアシ等の湿性植物が生育し、自然裸地（礫河原）にはイカルチドリが生息・繁殖している。堤防法面や高水敷には低・中茎草地のミヤコグサを食草とする絶滅危惧種のシルビアシジミが生息・繁殖している。さらに流れが穏やかでやや深い淀みを有する汽水域には、多くの稚魚の生息場所となるコアマモ群落が分布し、その周辺には国内固有種で宮崎県のほか一部の地域でしかまとまった数が確認されていない絶滅危惧種のアカメが生息・繁殖する。また、汽水域の砂泥底には絶滅危惧種のハクセンシオマネキ等の底生動物や絶滅危惧種のクボハゼをはじめとしたハゼ類も多く生息・繁殖する。河口周辺の砂浜では絶滅危惧種のアカウミガメの産卵が見られ、河口砂州は絶滅危惧種のコアジサシの集団繁殖地となっている。タブノキ等の河畔林で囲まれた丸島と呼ばれる中州では、クロサギ等のサギ類や絶滅危惧種のミサゴ等多くの鳥類が生息している。ワンド・たまり等の水際には絶滅危惧種のタコノアシ等が生育している。ヨシ原にはカヤネズミが生息・繁殖している。水量が豊富なことからスズキがアユを追って中流淡水域まで遡上し、そのスズキやアユなどを捕獲する伝統漁法も現存する。



タコノアシ

(国：準絶滅危惧、県：準絶滅危惧)



アカメ

(国：絶滅危惧 I B 類、県：絶滅危惧 II 類)



ミサゴ

(国：準絶滅危惧)



スズキ

(2) 本庄川

最大支川の本庄川流域は、四万十累層群に覆われた急峻な地形を有し、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、九州屈指の清流となっている。平野部に入ると蛇行が大きく、瀬や淵が交互に見られ、瀬にはアユの産卵場が多数存在する。広い低水敷に形成されたワンド・たまり等の水際には、ササバモや絶滅危惧種の水キンバイ等の水生植物が生育し、絶滅危惧種のみなみメダカ等の魚類にとって良好な生息・繁殖環境を創出している。ホウライチク等の竹林は、サギ類の集団ねぐらとなっている。ヤナギ林周辺では、コムラサキが生息・繁殖している。



水キンバイ

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠA類)



みなみメダカ

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠA類)

4) 大淀川の生物

河川水辺の国勢調査結果をもとに、各生物相の概要を整理した。

表2-1 各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
魚類	令和4年度の現地調査では、16目41科96種が確認されている。 重要種は、ミナミメダカ、アカメ、スミウキゴリ等の17種が確認されている。 特定外来生物は、カダヤシ、ブルーギルが確認されている。
底生動物	平成30年度の現地調査では、38目168科480種が確認されている。 重要種は、シオマネキ、トリウミアカイソモドキ、キイロサナエ等の51種が確認されている。 特定外来生物は、アメリカザリガニが確認されている。
植物	平成27年度の現地調査では、124科653種が確認されている。 重要種は、カワヂシャ、タコノアシ、ミゾコウジュ等の29種が確認されている。 特定外来生物は、オオキンケイギクが確認されている。 また、令和3年度の環境基図調査では、20種の重要種が確認されている。
鳥類	平成27年度の現地調査では、14目35科104種が確認されている。 重要種は、コアジサシ、ハヤブサ、ミサゴ等の16種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
両生類 爬虫類 哺乳類	令和2年度の現地調査では、両生類9種、爬虫類9種、哺乳類14種が確認されている。 重要種は、両生類のトノサマガエル、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、爬虫類のニホンスッポン、シロマダラ、哺乳類のモモジロコウモリ、カヤネズミ、ハタネズミが確認されている。 特定外来生物は、ミシシippアカミミガメ、ウシガエルが確認されている。
陸上昆虫類	平成31年度の現地調査では、11目148科1316種（昆虫類1159種、クモ類157種）が確認されている。 重要種は、ベニイトトンボ、コムラサキ、ツマグロキチョウ、コガタノゲンゴロウ等の41種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。

表2-2 大淀川における河川水辺の国勢調査の実施状況

調査項目	調査年度																																
	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
河川調査	●	●	●	●						●	●								●				●			●						●	
魚類調査	●	●				●	●					●	●						●				●					●				●	
底生動物調査		●				●	●					●	●						●				●					●					
植物調査		●	●							●	●			●	●										●								
鳥類調査				●	●					●					●										●								
両生類・爬虫類・哺乳類調査			●					●					●										●								●		
陸上昆虫類等調査	●	●			●	●					●	●									●									●			

※調査項目の序列は、「河川水辺の国勢調査マニュアル」に準拠して整理している。

これまで大淀川水系で実施された河川水辺の国勢調査結果等に基づき、学術上の重要性及び希少性の観点から、下表に示す選定基準に該当する種を重要種として選定した。大淀川の重要種を以下に示す。

表2-3(1) 重要種選定基準

文献 No.	区分	所管管理者	年度	内容	選定対象 〈 〉 内略号
1	文化財保護法 文化財保護条例	文化庁 都道府県 市町村	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物〈国天〉 都道府県指定天然記念物〈県天〉 市町村指定天然記念物〈市町村天〉
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境省	2024	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡、輸出入等の規制により保護	国内稀少野生動物種〈絶滅〉 (対象：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、唇脚類、二枚貝類、陸産貝類、甲殻類、植物)
3	宮崎県野生動植物の保護に関する条例	宮崎県	2005	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡等の規制により保護	稀少野生動植物一次指定〈一次〉 稀少野生動植物二次指定〈二次〉 (対象：植物、魚類、鳥類、両生類、哺乳類、昆虫類)
4	環境省レッドリスト2020	環境省	2020	日本に生息・生育する野生生物について、生物学的な観点から個々の種の絶滅の危険度を評価	絶滅〈EX〉 野生絶滅〈EW〉 絶滅危惧ⅠA類〈CR〉 絶滅危惧ⅠB類〈EN〉 絶滅危惧Ⅰ類〈CR+EN〉 絶滅危惧Ⅱ類〈VU〉 準絶滅危惧〈NT〉 情報不足〈DD〉 絶滅のおそれのある地域個体群<LP> (対象：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物(クモ形綱、甲殻綱等)、植物(維管束植物、維管束植物以外:蘚苔類、藻類、地衣類、菌類))
5	三訂・宮崎県版レッドデータブック	宮崎県	2020	宮崎県における絶滅のおそれのある野生生物をカテゴリー別に選定	絶滅<EX-d> 絶滅危惧ⅠA類 <CR-r,CR-g,CR-d> 絶滅危惧ⅠB類<EN-r,EN-g> 絶滅危惧Ⅱ類<VU-r,VU-g> 準絶滅危惧<NT-r,NT-g> 情報不足<DD-1,DD-2> その他保護上重要な種 <OT-1, OT-2>
6	第5回 自然環境保全基礎調査 (特定植物群落調査)	環境省	2000	学術上重要な群落、保護を必要とする植物群落を選定	特定植物群落〈重要〉
7	自然環境保全基礎調査 (すぐれた自然調査)	環境省	1981	植物、野生動物等について稀少性、固有性、特異性という視点で分布を調査	すぐれた自然調査対象種〈自然〉 (選定対象：獣類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類(淡水産)、昆虫類)

表2-3(2) 大淀川水系で確認された重要種

◆魚類

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保 全基礎調査
アカメ			一次	EN	VU-g	
イチモンジタナゴ				CR		
イドミズハゼ				NT	DD-2	
エドハゼ				VU	VU-r	
オオヨドシマドジョウ				EN	CR-r	
オヤニラミ				EN		
クボハゼ				EN	VU-r	
ゲンゴロウブナ				EN		
サクラマス(ヤマメ)				NT		
シロウオ				VU	NT-g	
タメモハゼ				EN		
チワラスボ				EN		
トビハゼ				NT	VU-g	
ニホンウナギ				EN	EN-g	
ハス				VU		
ヒモハゼ				NT	NT-g	
マサゴハゼ				VU		
ミナミメダカ				VU	CR-r	
ヤエヤマノコギリハゼ				CR		
ドジョウ				NT	NT-g	
アシシロハゼ					NT-g	
ウキゴリ					NT-g	
カマキリ					NT-g	
カワアナゴ					NT-g	
スミウキゴリ					NT-g	
ナマズ					NT-g	
モツゴ					DD-2	
ヤマトイトヒキサギ					NT-g	
ヨウジウオ					VU-g	
ルリヨシノボリ					NT-g	

※赤字:今回変更で新しく追記

表2-3(3) 大淀川水系で確認された重要種

◆底生動物(1/2)

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保 全基礎調査
イボビル				DD		
ウスコミミガイ				NT	EN-r	
オオタニシ				NT	CR-r	
オチバガイ				NT	NT-g	
カワアイガイ				VU	VU-g	
カラスガイ				EN		
アカテノコギリガザミ					NT-g	
ドブガイ					NT-g	
カワクチツボ				NT	NT-r	
カワスナガニ				NT	NT-g	
キイロサナエ				NT	VU-g	
キイロヤマトンボ				NT	EN-r	
キベリマメゲンゴロウ				NT	VU-r	
クリイロカワザンショウガイ				NT	NT-g	
ゲンバイトンボ				NT	EN-r	
ケスジドロムシ				VU		
コオナガミズスマシ				VU	EN-r	
ヨシダカヒメモノアラガイ				DD		
サザナミツボ				NT	NT-r	
シオマネキ				VU	CR-g	
タイワンオオヒライソガニ				DD	DD-2	
タケノコカワナチ				VU	VU-g	
ナゴヤサナエ				VU	DD-2	
ナラビオカミミガイ				VU	VU-r	
ハクセンシオマネキ				VU	NT-g	
トゲアシヒライソガニモドキ					VU-r	
ナベバタムシ					NT-g	

※赤字:今回変更で新しく追記

表2-3(4) 大淀川水系で確認された重要種

◆底生動物(2/2)

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保全 基礎調査
ハザクラガイ				NT	NT-g	
ハマグリ				VU	VU-g	
ヒラマキミズマイマイ				DD	DD-1	
ハマガニ					NT-g	
ヒコサンセスジゲンゴロウ					NT-r	
ヒメアシハラガニ					NT-g	
ヒメズラタマキビガイ					NT-g	
ヒメヒライソモドキ					VU-r	
ヒメヤマトオサガニ					NT-g	
ヒラテテナガエビ					NT-r	
ヒロクチカノコガイ				NT	NT-r	
フタバカクガニ					NT-g	
フトヘナタリガイ				NT	NT-g	
マシジミ				VU	VU-g	
マルタニシ				VU	NT-g	
モノアラガイ				NT	NT-g	
ヤマトシジミ				NT	DD-2	
ヨコミゾドロムシ				VU	DD-2	
ヘコミカマカ					NT-g	
ベンケイガニ					VU-g	
ミナミアシハラガニ					VU-r	
ムロミスナウミナナフシ					NT-g	
ヤマトオサガニ					NT-g	
ヨシダカワザンショウガイ				NT	NT-g	
アオサナエ					NT-r	
アカテガニ					NT-g	
アシハラガニ					NT-g	
アナジャコ					NT-g	
アリアケモドキ					NT-r	
ウミゴマツボ					VU-r	
ウモレベンケイガニ					CR-r	
オオイトトンボ					EX-g	
オナガサナエ					NT-r	
カクベンケイガニ					NT-g	
クロサナエ					NT-r	
クロベンケイガニ					NT-g	
コフキヒメイトトンボ					NT-r	
コメツキガニ					NT-g	
コヤスツララガイ					VU-r	
サワガニ					NT-g	
スナガニ					NT-g	
ソトオリガイ					VU-r	
タイワンヒライソモドキ					NT-g	
チコガニ					NT-g	
テナガエビ					NT-r	
トリウミアカイソモドキ					VU-r	

※赤字:今回変更で新しく追記

表2-3(5) 大淀川水系で確認された重要種

◆植物(1/2)

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保全 基礎調査
イチイガシ						重要
スギ					CR-r	重要
ソテツ					OT-l	重要
ヒノキ					CR-r	
ヘゴ					NT-r	重要
ガンゼキラン			一次	VU	VU-r	
フウラン			一次	VU	VU-g	
アオイカズラ				VU		
ナガバノウナギツカミ				NT	CR-r	
ミズトラノオ				VU	CR-r	
アマノホシクサ				CR	CR-g	
ゴマシオホシクサ				EN	CR-g	
ヤマアワ					CR-r	
ピロードスゲ					CR-r	
イヌハギ				VU	CR-g	
ツクシアブラガヤ				EN	NT-g	
ミズマツバ				VU	NT-g	
ハマボウ					NT-g	重要
シラン				NT	NT-r	
アオカズラ				EN	NT-r	
イトクスモ				VU	CR-r	
エビネ				NT	NT-g	
オナモミ				VU	EX-g	
カワヂシャ				NT		
キンチャクアオイ				VU	NT-g	
コイヌガラシ				NT	VU-g	
ゴマクサ				VU	NT-g	
サツマシダ				EN	CR-r	
スズサイコ				NT	VU-g	
スズメハコベ				VU		
タコノアシ				NT	NT-g	
タチモ				NT	EX-r	
タニジャコウソウ				NT	NT-r	
ツチグリ				VU	CR-r	
トゲハチジョウシダ				EN		
ナガエミクリ				NT	VU-g	
ニッケイ				NT		
ヌカボタデ				VU	EN-g	
ノヒメユリ				EN	EN-g	
ハナムグラ				VU		
ヒメナエ				VU	EN-g	
ヒュウガトウキ				VU	NT-g	
ボウラン				NT	NT-g	
ホソバオグルマ				VU	VU-r	
ホソバニガナ				EN	CR-r	
マツバニンジン				CR		
マメダオシ				CR	DD-1	
マルバデイショウソウ				VU	NT-g	
ミズキンバイ				VU	CR-g	
ミスネコノオ				NT	VU-g	
ミゾコウジュ				NT	NT-g	
ヤマトミクリ				NT	EN-r	
ヤワラハチジョウシダ				EN	VU-r	
ロクオンソウ				VU	VU-g	
アイアシ					VU-g	
アオカモメツル					VU-g	
アギスミレ					NT-r	
アツバニガナ					NT-g	
イガホオズキ					EN-r	
イケマ					NT-r	
イセウキヤガラ					VU-r	
イトスズメガヤ					NT-g	
イナカギク					CR-r	
ウキヤガラ					CR-r	
ウシクグ					EN-r	
ウシバシツペイ					EN-r	
ウマスゲ					CR-g	
ウマノスズクサ					VU-r	

※赤字:今回変更で新しく追記

表2-3(6) 大淀川水系で確認された重要種

◆植物(2/2)

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保全 基礎調査
ウワバミソウ					NT-g	
エビモ					NT-g	
オオバギボウシ					NT-g	
オオバクサフジ					EN-r	
オニスゲ					VU-g	
ガガイモ					NT-r	
カワラナデシコ					VU-g	
キクバドコロ					NT-r	
クサコアカソ					VU-r	
クサスゲ					VU-g	
クマツヅラ					NT-g	
クラマゴケ					EN-r	
クロモ					VU-g	
ゲンバイヒルガオ					VU-r	重要
コアゼテンツキ					CR-r	
コアマモ					NT-g	
コウヤワラビ					NT-g	
ゴキヅル					NT-g	
コケイラン					NT-g	
ササバモ					EN-g	
サデクサ					CR-g	
シオカゼテンツキ					EN-r	
シソクサ					NT-g	
スズダケ					VU-g	
セキショウモ					VU-g	
タガラシ					NT-g	
ツゲ					CR-r	
ツルフジバカマ					CR-r	
ナンゴクワセオバナ					VU-r	
ニオウヤブマオ					NT-g	
ニラバラン					NT-r	
ハナビゼキショウ					CR-r	
ハマゼリ					EN-r	
ハマニガナ					NT-g	
ヒナノカンザシ					NT-r	
ヒメガヤツリ					CR-r	
ヒメコウガイゼキショウ					NT-g	
ヒメシオン					CR-r	
ヒメシダ					CR-r	
ヒメシラスゲ					NT-g	
ヒメテンナンショウ					NT-g	
ヒメナミキ					EN-r	
ヒメミソハギ					VU-g	
ヒルムシロ					NT-g	
ピロードテンツキ					NT-g	
フトイ					CR-r	
ホザキノフサモ					NT-g	
ホシクサ					NT-g	
ホソイ					VU-r	
ホソバノウナギツカミ					NT-g	
ホソバミズヒキモ					NT-g	
ホタルブクロ					NT-r	
ホツモ					VU-g	
マシカクイ					NT-g	
マツモ					VU-g	
ミソハギ					VU-g	
ミソハコベ					NT-g	
ミヤマカンスゲ					DD-1	
モロコシソウ					NT-r	
ヤナギイボタ					EN-r	
ヤマイバラ					VU-r	
ヤリノホクリハラン					NT-r	
ヨツバハギ					CR-r	
ヨツバムグラ					EN-r	
レンリソウ					CR-r	
ワダンウ					CR-r	
ワチガイソウ					NT-g	
ススキ						重要
ダンチク						重要

※赤字:今回変更で新しく追記

表2-3(7) 大淀川水系で確認された重要種

◆鳥類

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保全 基礎調査
ブッポウソウ				EN	EN-r	自然
チュウヒ		絶滅		EN	EN-r	
ハヤブサ		絶滅		VU	NT-r	
コアジサシ			一次	VU	EN-g	自然
アカアシシギ				VU	NT-r	
ウズラ				VU	CR-d	
オオセグロカモメ				NT		
オオタカ				NT	NT-r	
オシドリ				DD		自然
ケリ				DD		
コジャクシギ				EN		
サンショウクイ				VU		
シロチドリ				VU	VU-g	
タカブシギ				VU	NT-r	
チュウサギ				NT		
ツクシガモ				VU	VU-r	
ハイタカ				NT	NT-r	
ハマシギ				NT	NT-g	
ヒクイナ				NT	NT-g	
ミサゴ				NT		
ミヤコドリ				NT	NT-g	
アオバズク					VU-g	
アカショウビン					NT-r	
イカルチドリ					NT-r	
クイナ					NT-r	
クロサギ					NT-r	
クロジ					NT-g	
ゴイサギ					NT-g	
コチドリ					NT-g	
コノハズク					CR-d	
コミズク					VU-r	
ササゴイ					NT-g	
ツミ					NT-r	
バン					NT-g	
フクロウ					VU-g	
ホオアカ					OT-1	自然

※赤字:今回変更で新しく追記

表2-3(8) 大淀川水系で確認された重要種

◆両生類、爬虫類、哺乳類

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保全 基礎調査
アカウミガメ	県天			EN	NT-g	
アカハライモリ				NT		
トノサマガエル				NT	NT-g	
ニホンイシガメ				NT	VU-r	
ニホンスッポン				DD	DD-2	
ハツカネズミ				CR+EN	DD-2	
カヤネズミ					NT-g	
シロマダラ					DD-2	
ニホンヒキガエル					NT-g	
ハタネズミ					DD-2	
モモジロコウモリ					NT-r	
ユビナガコウモリ					NT-r	

表2-3(9) 大淀川水系で確認された重要種

◆陸上昆虫類

種名等	文化財 保護法	種の 保存法	宮崎県 条例	環境省 RL2020	宮崎県 RDB2020	環境省 自然環境保全 基礎調査
アイヌハンミョウ				NT	NT-g	
アシナガナガカメムシ				NT	NT-r	
ウラナミジャノス本土亜種					NT-g	
ウスミモンキリガ				NT		
オオトックリゴミムシ				NT	DD-2	
カギモンハナオヘアツバ				NT		
キイロコガシラミズムシ				VU	VU-g	
キバネキバナガミズギワゴミ ムシ				VU		
シロヘリツチカメムシ				NT	DD-2	
ヒトツメアオゴミムシ				NT	DD-2	
ヤマトスナハキバチ				DD		
キベリクロヒメゲンゴロウ				NT	NT-g	
ギンイチモンジセセリ				NT	VU-g	
ギンモンアカヨトウ				VU		
ケシゲンゴロウ				NT	NT-g	
コガタノゲンゴロウ				VU	OT-1	
コガムシ				DD	EN-r	
シジミガムシ				EN	VU-g	
シャープツブゲンゴロウ				NT	VU-g	
シルビアシジミ				EN	VU-r	
ツマダロキチョウ				EN	NT-g	
ハウチワウンカ				VU		
ベニイトンボ				NT	EN-r	
マルケシゲンゴロウ				NT	VU-r	
モードイトンボ				NT	CR-r	
ヤマトアシナガバチ				DD		
アキアカネ					NT-g	
アシダラツユムシ					DD-2	
エリザハンミョウ					NT-r	
カヤコオロギ					VU-g	
キボシマルカメムシ					NT-r	
ゴイシシジミ					NT-g	
コガシラミズムシ					NT-g	
コシマゲンゴロウ					NT-g	
コバネイナゴ					DD-2	
コハンミョウ					NT-g	
コムラサキ					NT-g	
サイゴクイナゴ					OT-1	
セスジゲンゴロウ					EN-r	
タイコウチ					NT-g	
ダイミョウセセリ					NT-g	
ハマズズ					NT-g	
ヒメアカネ					NT-g	
ホソセスジゲンゴロウ					NT-r	
マツムシモドキ					NT-g	
ミヤマチャバネセセリ					NT-g	
リスアカネ					NT-g	

※赤字:今回変更で新しく追記

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

1) 観光及び景勝地

流域内には2つの国立・国定公園及び2つの県立自然公園があり、支川庄内川上流にある甌穴群や関之尾の滝、綾南川上流のままこ滝、岩瀬川上流の三之宮峡等の景勝地が数多く点在し、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わいを見せる。



関之尾の滝と甌穴

日本の滝100選にも選ばれた関之尾滝は、幅40m、高さ18mにも及ぶ大滝、そして木々の間から流れ落ちる男滝、女滝の3つの滝からなる。

流れる水の力が、川底の小石や岩石の破片を回転させることによりできた穴である関之尾甌穴群（天然記念物）は世界最大級の規模であり、地質学上でも貴重な資料とされている。



三之宮峡

岩瀬川上流で約4km続く谷間にある。アユやニジマスが泳ぐ透き通った川の周りには、そびえ立つ高さ30mの“びょうぶ岩”や30畳ほどの広さをもつ“カッパ洞”などユニークな景観を持つ。



長田峡

沖水川の上流10kmにわたる深い谷間にある。春には山桜が、秋には紅葉も楽しみ、清らかな水にはヤマメやウグイが泳いでいる。

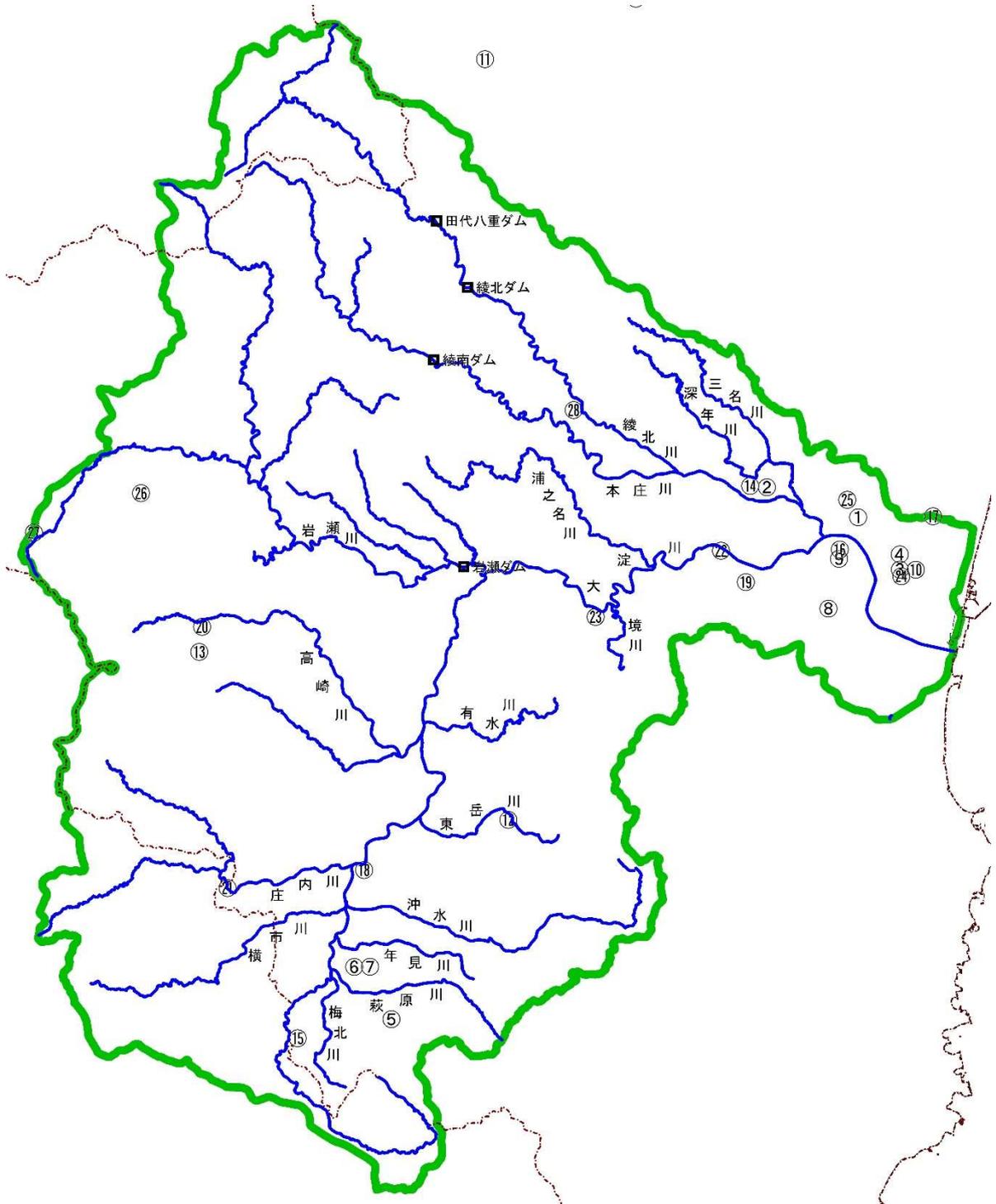


ままこ滝

季節ごとに、ちがう風景をみせる森が、深みのある色合いの水をたたえる小野湖の水面に映え、その奥にはしぶきをあげて流れ落ちる名滝の景観。昭和8年（1933年）には「須木の滝」として県の名勝に指定されています。

2) 文化財

大淀川流域には歴史的に重要な文化財・史跡が多く、表2-4に示すとおり国指定で28件、県指定で79件もの文化財が存在する。



注) 番号は、表2-4(1)大淀川流域内文化財一覧表（国指定）中の番号を示す。

図2-2 大淀川流域内国指定文化財位置図

表2-4(1) 大淀川流域内文化財一覧表

(1) 国指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重文	木造薬師如来及び両脇侍像 (三軀)	宮崎市 (王楽寺)	S19. 9. 5
2	重文	木造阿弥陀如来及び両脇侍像 (三軀)	国富町 (万福寺)	S19. 9. 5
3	重文	旧 黒 木 家 住 宅	宮崎市 (県総合博物館)	S48. 2.23
4	重文	旧 藤 田 家 住 宅	宮崎市 (県総合博物館)	S48. 2.23
5	重文	興 玉 神 社 内 神 殿	都城市 (興玉神社)	S58. 6. 2
6	重文	紺糸威紫白肩裾胴丸大袖付	都城市 (都城歴史資料館)	H 6. 6.28
7	重文	朝 鮮 国 書	都城市 (都城島津邸)	H27. 9. 4
8	重文	木 造 神 王 面	宮崎市 (生目神社)	H30.10.31
9	重文	下北方五号地下式横穴墓出土品	宮崎市 (宮崎市生目の杜遊古館)	R 2. 9.30
10	重有	日 向 の 山 村 生 産 用 具	宮崎市 (県総合博物館)	H 5. 4.15
11	重無	米 良 の 神 楽	西都市・木城町・西米良村	S52. 5.17
12	重無	山 之 口 の 文 弥 人 形	山之口町 (藪文弥節人形浄瑠璃資料館)	H 7.12.26
13	重無	高 原 の 神 舞	高原町	H22. 3.11
14	史跡	本 庄 古 墳 群	国富町	S 9. 8. 9
15	史跡	今 町 一 里 塚	都城市	S10.12.24
16	史跡	生 目 古 墳 群	宮崎市	S18. 9. 8
17	史跡	蓮ヶ池横穴群	宮崎市	S46. 7.17
18	史跡	大 島 畠 田 遺 跡	都城市	H14. 3.19
19	史跡	穆 佐 城 跡	宮崎市	H14. 3.19
20	天	狭 野 ス ギ 並 木	高原町 (狭野神社)	T13.12. 9
21	天	関 之 尾 の 甌 穴	都城市関之尾町	S 3. 2.18
22	天	高 岡 の 月 知 梅	高岡町	S10.12.24
23	天	去 川 の イ チ ョ ウ	高岡町	S10.12.24
24	天	宮 崎 神 宮 の オ オ シ ラ フ ジ	宮崎市 (宮崎神宮)	S26. 6. 9
25	天	瓜 生 野 八 幡 神 社 の ク ス ノ キ 群	宮崎市 (瓜生野八幡神社)	S26. 6. 9
26	天	エヒメアヤメ自生南限地帯	小林市	S43. 6.14
27	天	甌 岳 針 葉 樹 林	えびの市	S44. 8.22
28	天	竹 野 の ホ ル ト ノ キ	綾町	S52. 2.17

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重文	木 造 弘 法 大 師 坐 像	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
2	重文	神 面	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
3	有文	木造阿弥陀如来座像 (一軀)	宮崎市 (県総合博物館)	S40. 8.17
4	有文	木造薬師如来及び両脇侍像 (三軀)	国富町 (法華嶽薬師寺)	S40. 8.17
5	有文	須 弥 壇 (一基)	国富町 (法華嶽薬師寺)	S40. 8.17
6	有文	朱 塗 丸 盆 (四枚)	都城市	S40. 8.17
7	有文	六 地 蔵 幢	小林市	S40. 8.17
8	有文	木造阿弥陀如来座像 (一軀)	綾町 (川中神社)	S46. 6.11
9	有文	米良の民家 旧黒木幸見家住宅	宮崎市 (県総合博物館)	S52. 4. 1
10	有文	椎 葉 の 民 家	宮崎市 (県総合博物館)	S52. 4. 1
11	有文	土 持 文 書	宮崎市 (県総合博物館)	S58. 1.21
12	有文	東 霧 島 の 梵 鐘	高崎町 (東霧島神社)	S60.12.17
13	有文	木造薬師如来座像 (一軀)	国富町	S61. 3.25
14	有文	木造聖観音菩薩座像 (一軀)	国富町	S61. 3.25

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財
 重無：重要無形民俗文化財 重：重要無形文化財 有文：有形文化財
 天：天然記念物

注) 2010年版宮崎県観光要覧(平成22年 4月：宮崎県)より。

表2-4(2) 大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
15	有文	男神像及び女神像（四軀）	都城市美川町（千足神社）	S34. 7. 10
16	有文	兼喜神社社殿	都城市都島町	H 6. 11. 28
17	有文	野辺文書	都城市（本村家）	H11. 3. 31
18	有文	妙円寺跡石塔群	宮崎市（本勝寺）	H15. 11. 16
19	有文	金剛寺文書	宮崎市（みやざき歴史文化館）	H18. 3. 23
20	有文	伊東祐青奉納墨書天井画	国富町（法華嶽薬師寺）	H29. 8. 28
21	有文	旧二見家住宅	宮崎市高岡町	H30. 2. 26
22	有文	銅鰐口	宮崎市（県総合博物館）	H30. 9. 10
23	有文	都城島津家伝来史料	都城市（都城島津邸）	R 4. 2. 24
24	無民	輪太鼓踊	小林市	S37. 5. 15
25	無民	バラ太鼓踊	国富町	S37. 5. 15
26	無民	熊襲踊	都城市	S47. 9. 26
27	無民	山之口弥五郎どんまつり	山之口町	H 2. 3. 27
28	無民	高木の揚げ馬	都城市	H 6. 3. 25
29	無民	花木あげ馬	山之口町	H 6. 3. 25
30	無民	穂満坊あげ馬	高城町	H 6. 3. 25
31	無民	末吉住吉神社の流鏝馬	鹿児島県末吉町二之方住吉	S56. 3. 27
32	無民	末吉町熊野神社の鬼追い	鹿児島県末吉町深川	H 6. 3. 16
33	無民	生目神楽	宮崎市	R 4. 9. 8
34	史跡	去川の関跡	高岡町	S 8. 12. 5
35	史跡	刀工田中国広宅跡	綾町	S 8. 12. 5
36	史跡	本庄の石仏	国富町	S 8. 12. 5
37	史跡	谷村計介旧宅跡	宮崎市	S 8. 12. 5
38	史跡	何欽吉の墓	都城市	S 9. 4. 19
39	史跡	伊東塚	小林市	S 9. 4. 17
40	史跡	祝吉御所跡	都城市	S 9. 4. 17
41	史跡	池の原一里塚	野尻町	S11. 7. 17
42	史跡	漆野原一里塚	野尻町	S11. 7. 17
43	史跡	石器時代住居跡尾平野洞窟	都城市	S32. 12. 15
44	史跡	東麓石窟仏	野尻町	S32. 12. 15
45	史跡	本田遺跡	小林市	S51. 3. 26
46	史跡	赤江町古墳	宮崎市	S 8. 12. 5
47	史跡	野尻町古墳	野尻町	S 8. 12. 5
48	史跡	綾町古墳	綾町	S 8. 12. 5
49	史跡	倉岡村古墳	宮崎市	S 8. 12. 5
50	史跡	都城市古墳	都城市	S 9. 4. 17
51	史跡	志和池村古墳	都城市	S 9. 4. 17
52	史跡	須木村古墳	須木村	S 9. 4. 17
53	史跡	八代村古墳	国富町	S 9. 4. 17
54	史跡	高城町古墳	高城町	S10. 7. 2
55	史跡	都城市沖水古墳	都城市	S11. 7. 17
56	史跡	山之口村古墳	山之口町	S11. 7. 17
57	史跡	木脇村古墳	国富町	S11. 7. 17

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財
 重無：重要無形民俗文化財 重：重要無形文化財 有文：有形文化財
 天：天然記念物

(注) 2010年版宮崎県観光要覧（平成22年 4月：宮崎県）より。

表2-4(3) 大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
58	史跡	宮 崎 市 大 淀 古 墳	宮崎市	S12. 7. 2
59	史跡	木 花 村 古 墳	宮崎市	S12. 7. 2
60	史跡	住 吉 村 古 墳	宮崎市	S14. 1. 27
61	史跡	本 庄 町 古 墳	国富町	S14. 1. 27
62	史跡	小 林 町 古 墳	小林市	S14. 1. 27
63	史跡	宮 崎 市 下 北 方 古 墳	宮崎市	S14. 4. 21
64	史跡	高 岡 町 古 墳	高岡町	S17. 6. 23
65	史跡	高 崎 町 古 墳	高崎町	S17. 6. 23
66	史跡	生 目 村 古 墳	宮崎市	S19. 12. 15
67	史跡	高 原 町 古 墳	高原町	S19. 12. 15
68	史跡	瓜 生 野 村 古 墳	宮崎市	S19. 12. 15
69	史跡	池 内 横 穴	宮崎市	S47. 5. 26
70	史跡	船 塚 古 墳	高原町	S52. 4. 1
71	史跡	東二原地下式横穴墓群	小林市	H27. 9. 7
72	名勝	須 木 の 滝	須木	S 8. 12. 5
73	天	大 師 の コ ウ ヤ マ キ	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
74	天	溝 ノ 口 洞 穴	鹿児島県財部町大塚厚	S30. 1. 4
75	天	森 永 の 化 石 群	国富町	S12. 7. 2
76	天	山 田 の イ チ ョ ウ	山田町	S14. 1. 27
77	天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎市(延岡市, 日南市)	S55. 6. 24
78	天	綾 の イ チ イ ガ シ	綾町	S60. 1. 4
79	天	天 林 寺 の オ ハ ツ キ イ チ ョ ウ	宮崎市(天林寺境内)	S60. 12. 17

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財
 重無：重要無形民俗文化財 重：重要無形文化財 有文：有形文化財
 天：天然記念物

注) 2010年版宮崎県観光要覧(平成22年 4月：宮崎県)より。



高岡町去川の大イチョウ(国指定天然記念物)

樹齢800年、幹周約10m、高さ約41mの古木で、島津家初代忠久公が薩摩街道のこの地に植えたといわれている。



興玉神社内神殿（国指定重要文化財）

宮崎県最古の建造物であり、その様式は、禅宗様（唐様）といい、禅宗とともに寺院建築の新様式として、中国大陸から鎌倉時代に伝来し、日本全土に広まっている。



蓮ヶ池横穴群（国指定史跡）

市街北方の国道10号沿い、小池の散在する丘陵地の斜面にある。6,7世紀ごろの築造と見られる横穴古墳が、現在82基確認されており、この地方の古代を知るうえでの貴重な史料となっている。

2-4 自然公園等の指定状況

大淀川流域は、自然環境に恵まれた地域が多く、図2-3~4及び表2-5に示すように自然公園及び鳥獣保護区域が設定されている。

また、霧島山系とその周辺においては、自然の多様性とそれを育む火山活動をテーマとした「霧島ジオパーク」が日本ジオパークとして認定されているとともに、支川の本庄川や綾北川の上流域においては、生態系の保全と維持可能な利活用の調和を持つ地域として、綾地域が「綾ユネスコパーク」として登録されている。



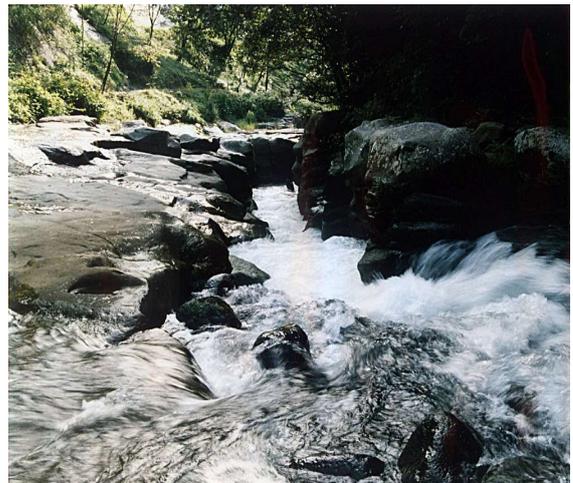
霧島錦江湾国立公園



九州中央山地国定公園



母智丘・関之尾県立自然公園



わにか県立自然公園



図2-3 自然公園位置図

表2-5 自然公園

種別	公園名	流域内 関係市町村	指定年月日	備考
国立・国定公園	霧島屋久国立公園	えびの市、小林市 都城市、高原町	S 9. 3.16 特別保護地区 S42. 3.23	25座の集成火山、暖帯多雨林 ミヤマキリシマの大群落。
	九州中央山地 国定公園	小林市、綾町 西米良村	S57. 5.15	原生林のすぐれた自然景観と 豊かな動植物、歴史的文化的財 資源に富む。
県立自然公園	母智丘・関之尾 県立自然公園	都城市	S33. 9. 1 特別地域 S46. 2. 5	滝と甌穴、桜並木
	わにっか 県立自然公園	宮崎市、都城市 三股町	S36. 3.31 拡張の特別地域 S41.12.24	山頂展望、溪谷、滝

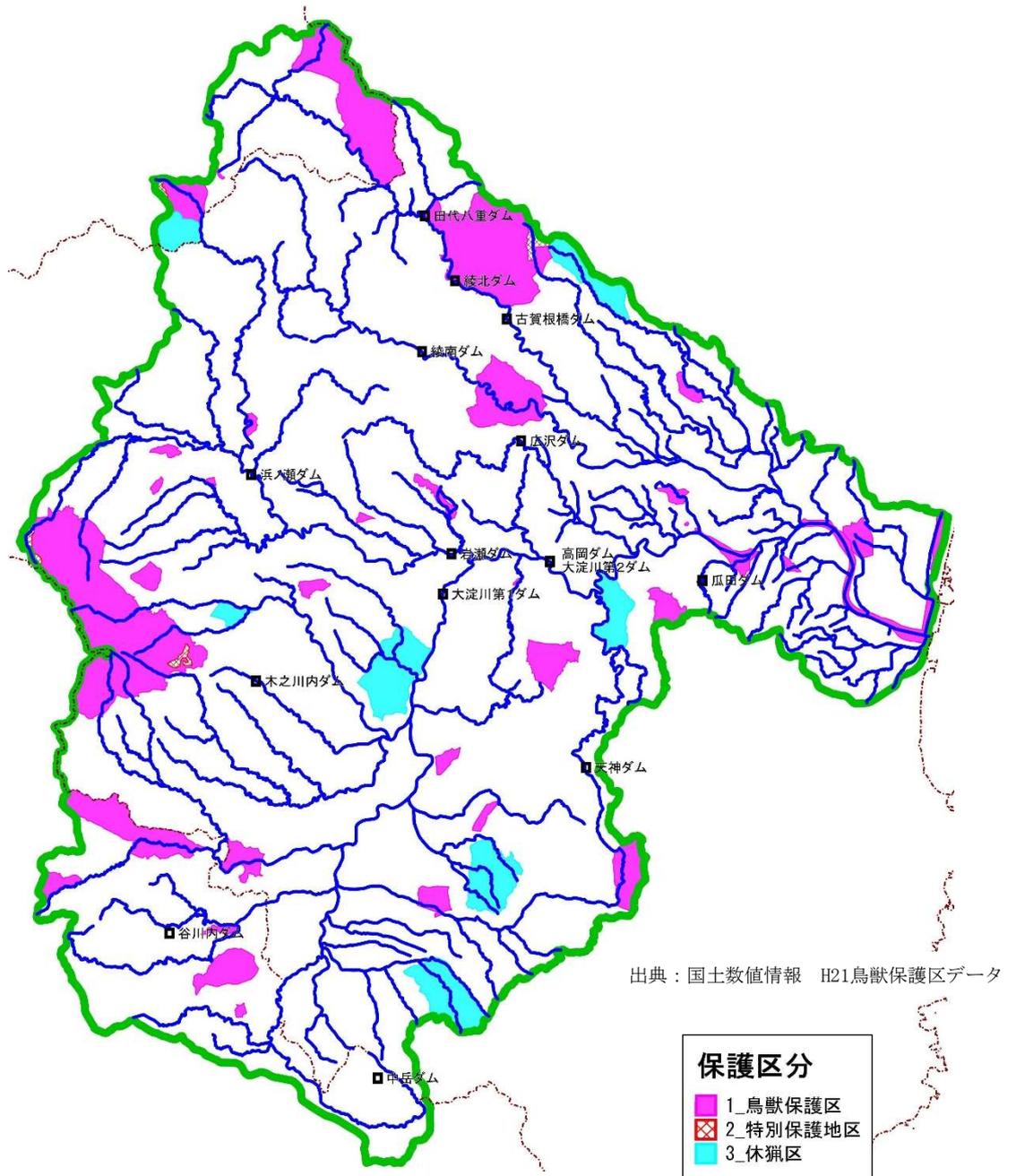


図2-4 鳥獣保護区指定区域図

第3章 流域の社会状況

3-1 人口

大淀川流域の関係自治体は、宮崎市や都城市をはじめ6市6町1村からなり、平成22年(2010年)現在で流域内人口は約60万人、想定氾濫区域内人口は約15万人となっている。

表3-1 流域内人口の推移

年次 区分	昭和35年 (人)	昭和40年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	平成22年 (人)	平成27年 (人)	令和2年 (人)	人口密度 (人/km ²)
流域内	434,708	436,968	509,101	567,377	566,554	585,767	601,321	599,085	596,822	603,018	—	—	270.4
想定氾濫 区域内	—	—	—	—	—	—	133,803	140,943	141,822	148,024	—	—	1,655.7
宮崎市	—	—	291,157	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583	401,138	401,339	—

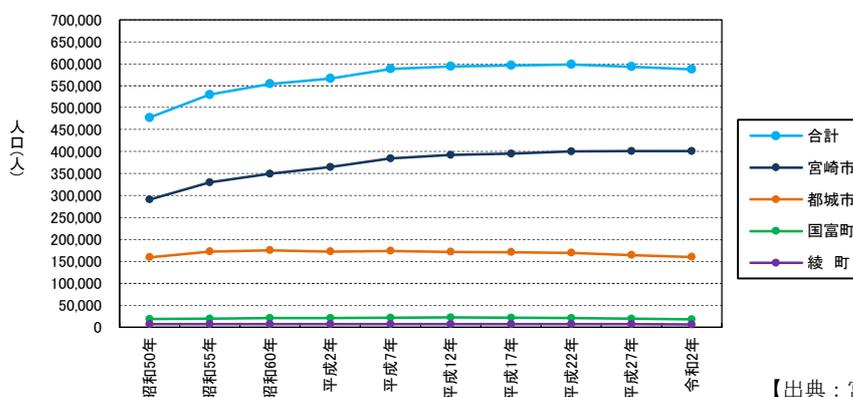
【出典：流域内人口・想定氾濫区域内人口は「河川現況調査(最新調査時点：H22)」
宮崎市人口は「国勢調査(最新調査時点：R2)」】

表3-2 流域関連主要市町人口の推移

区分	市町村名	人口(人)										
		昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	
市	宮崎市	旧宮崎市	234,347	264,855	279,114	287,352	300,068	305,755	310,123	316,198	317,000	-
		旧清武市	11,765	14,528	16,629	22,507	27,127	28,755	28,696	28,891	29,276	-
		旧田野町	9,856	10,806	11,417	11,645	12,428	12,321	11,580	11,025	10,706	-
		旧佐田原町	22,715	26,932	29,607	30,758	31,827	32,499	32,981	32,941	33,201	-
		旧高岡町	12,474	12,630	12,698	12,818	12,941	12,848	12,213	11,528	10,955	-
		計	291,157	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583	401,138	401,339
	都城市	旧都城市	118,289	129,009	132,098	130,153	132,714	131,922	133,062	134,050	132,264	-
		旧山之口町	7,106	7,773	7,743	7,614	7,561	7,322	6,935	6,635	6,310	-
		旧高城町	12,727	13,591	13,804	13,321	12,915	12,570	11,944	11,191	10,392	-
		旧山田町	8,597	8,997	8,932	8,781	8,811	8,615	8,288	7,809	7,071	-
旧高崎町		12,907	13,285	13,151	12,724	12,053	11,383	10,726	9,917	8,992	-	
計	159,626	172,655	175,728	172,593	174,054	171,812	170,955	169,602	165,029	160,640		
町	国富町	19,050	19,864	21,161	21,339	22,130	22,367	21,692	20,909	19,606	18,398	
	綾町	7,339	7,264	7,309	7,385	7,419	7,596	7,478	7,224	7,345	6,934	
合計		477,172	529,534	553,663	566,397	587,994	593,953	595,718	598,318	593,118	587,311	

注1) 市町村別人口は、「国勢調査報告(総務省統計局)」による。

【出典：宮崎県統計年鑑】



【出典：宮崎県統計年鑑】

図3-1 流域関連人口の推移

3-2 土地利用

1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山林が全体の約68%を占め、水田や畑、果樹園等の農地が約21%、宅地等市街地が約11%の割合になっている。

表3-3 土地利用の現況

項目	面積 (km ²)	全面積に占める割合(%)
流域面積	2,230.0	100
森林面積	1,523.9	68
耕地面積(田・畑)	464.6	21
宅地その他	241.5	11

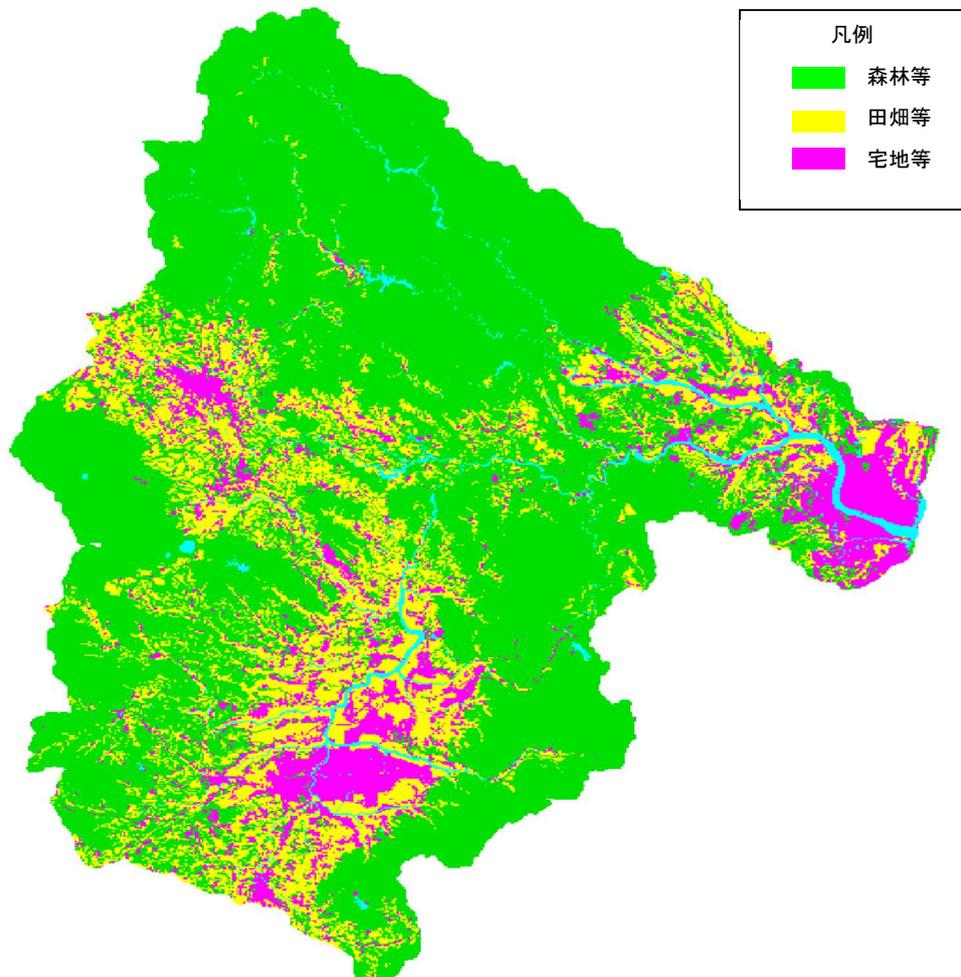


図3-2 大淀川流域における土地利用図

【出典：国土数値地図 R3土地利用メッシュデータ】

※国土数値地図において、田・その他の農用地・ゴルフ場を田畑等（黄色）として、建物用地・幹線交通用地・その他の用地を宅地等（赤色）として、森林・荒地を森林等（緑色）として整理。

3-3 産業・経済

流域内の総資産額は平成27年（2015年）3月時点で約11兆円で、その約半分は家屋資産が占めている。

流域内の産業は、温暖な気候と大きな盆地、広い平野、豊かな森林に恵まれていることから特徴ある多様な農畜産業が盛んであり、中でも宮崎市や都城市で生産される宮崎牛やマンゴー等、「みやざきブランド」として全国各地に産出されている。

加えて都城市は、霧島の伏流水により生み出される焼酎も日本一の出荷額を誇る。

表3-4 流域内資産額（単位：百万円）

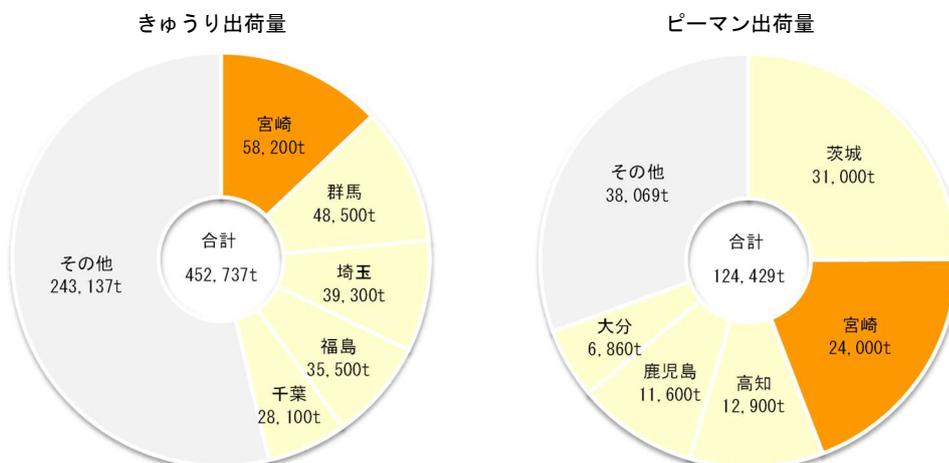
家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
5,762,590 (52.6)	3,676,121 (33.6)	1,479,049 (13.5)	37,126 (0.3)	10,954,886 (100.0)

注：（）書きは合計に対する比率

【出典：平成27年3月第10回河川現況調査】



【出典：農林水産省 統計情報 わがマチ・わがムラ】



【出典：令和5年産野菜生産出荷統計】

図3-3 主な農畜産出荷額等

3-4 交通

大淀川流域の道路は、高規格幹線道路として宮崎市を中心に宮崎自動車道や東九州自動車道が整備され、東九州自動車道は、日南・志布志道路、油津・夏井道路を整備中である。また、利便性の向上・地域の活性化・物流の効率化等に寄与するスマートインターチェンジ（山之口SIC〔宮崎自動車道〕、国富SIC〔東九州自動車道〕）が流域内に整備される等、当流域における産業や地域の発展について、今後大いに期待できるものと考えられる。さらに、九州唯一の中核国際港湾である志布志港（鹿児島県）と都城市を結ぶ地域高規格道路である都城志布志道路等の広域的な整備される等、今後、九州各地を結ぶ交通・物流の大動脈として期待される。

また、国道は北九州市から九州の東側を通り、宮崎市、都城市を経て鹿児島市へ至る国道10号を初め、熊本県人吉市を起点とし都城市へ至る国道221号、小林市を起点とし鹿児島県霧島市霧島町を経て霧島市隼人町へ至る223号、熊本県水俣市を起点とし小林市を経て宮崎市高岡町へ至る268号、鹿児島県指宿市を起点とし宮崎市へ至る269号、宮崎市を起点とし日南市や鹿児島県鹿屋市を経て鹿児島県霧島市へ至る220号等、九州南東部の主要な道路が流域内を通過している。

鉄道は北九州と鹿児島を結ぶJR日豊本線が流域を横断し、途中都城からJR吉都線が分岐しえびの市方向へ、途中宮崎からJR日南線が分岐し鹿児島県志布志市方向へ延びている。

日豊本線は大分市、延岡市、宮崎市等の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。また、宮崎県内の重要港湾である宮崎港、空の玄関口である宮崎空港においても物資等の輸送にも大きな役割を果たしている。

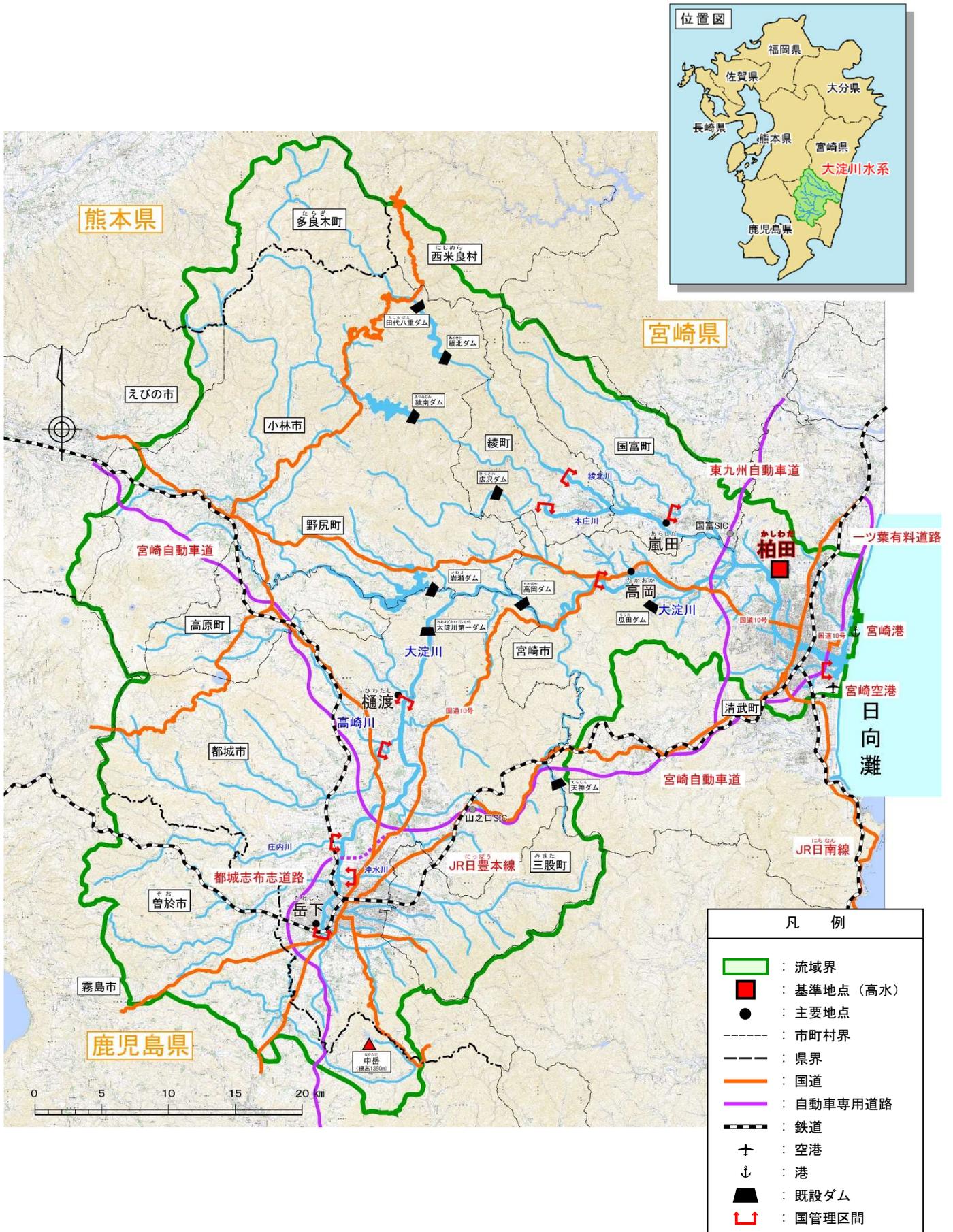


图3-4 大淀川流域交通体系图

第4章 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

大淀川流域の年雨量は約2,700mm程度であり、洪水の原因は8月～9月に発生する台風に伴う降雨によるものが多い。

大淀川の主要な洪水は昭和29年（1954年）9月洪水、昭和57年（1982年）8月洪水、平成5年（1993年）8月洪水、平成9年（1997年）9月洪水、平成16年（2004年）8月洪水、平成17年（2005年）9月洪水、令和4年（2022年）9月洪水等である。昭和29年（1954年）9月洪水や平成17年（2005年）9月洪水等、計画流量の改定の契機となった洪水も経験している。

（1）明治13年（1880年）8月3～5日洪水

8月3日から降り出した雨は、4日から5日には暴風雨となり、大洪水を引き起こした。その状況について公文録（県から政府に出した報告書）に、以下のように記述されている。

「増水の高さ2丈（6m）又は3丈（9m）あまりにもなって、堤防や道路の破壊、橋の流失破損、田畑の荒損、家屋の流失等、この数十年来まだ見たこともないほどの大水害で、人や牛馬の溺死もでた。」

（「大淀川の歴史」より）

（2）大正元年（1912年）10月2日洪水

10月2日の台風による暴風雨は、県内に死者44人、負傷者19人、行方不明者3人、家屋の全壊822戸、半壊588戸、家屋の浸水9,269戸という被害をもたらした。

（「宮崎県災異史」より）



大正中期ごろの大淀川の氾濫（旭通り）

(3) 昭和29年(1954年)9月10~13日洪水

台風第12号の接近により、9月10日より降り始めた雨は12~13日に豪雨となり、総雨量は平野部で250~300mm、山地部で700~1,000mmとなった。

河川の水位は12日夕刻、各地点共指定水位に到り、13日早朝、各々警戒水位に達するという異常な増水記録を示し、高岡町を始めとする中流各地域、及び下流の宮崎市内には13日12時~13時に沿岸住民に対する避難命令が発令された。

この大洪水によって、浦之名川合流点付近、及び高岡町狩野の一部は濁流にのまれ、大丸橋右岸取付道路約20mも13日18時頃の流失、下流では高松橋が13日18時頃流失、小戸橋も高松橋の流失橋材のため流失した。

宮崎県下の被害状況は、死者51人、負傷者62人、行方不明者13人、流失全壊家屋614戸、半壊683戸、床上浸水5,906戸、床下浸水8,228戸であった。(被害数は宮崎県災異史より)

台風12号県下を荒れ狂う

宮崎県下、高岡町で激甚な被害が起る。浦之名川合流点付近、及び高岡町狩野の一部は濁流にのまれ、大丸橋右岸取付道路約20mも13日18時頃の流失、下流では高松橋が13日18時頃流失、小戸橋も高松橋の流失橋材のため流失した。

宮崎県下の被害状況は、死者51人、負傷者62人、行方不明者13人、流失全壊家屋614戸、半壊683戸、床上浸水5,906戸、床下浸水8,228戸であった。(被害数は宮崎県災異史より)

死者三、退避は14万人

全市に初の退避命令

宮崎 五万人が44個所に避難

綾全町へ

高岡町、浦之名川合流点付近、及び高岡町狩野の一部は濁流にのまれ、大丸橋右岸取付道路約20mも13日18時頃の流失、下流では高松橋が13日18時頃流失、小戸橋も高松橋の流失橋材のため流失した。

宮崎県下の被害状況は、死者51人、負傷者62人、行方不明者13人、流失全壊家屋614戸、半壊683戸、床上浸水5,906戸、床下浸水8,228戸であった。(被害数は宮崎県災異史より)

提供：宮崎日日新聞社

<昭和29年（1954年）9月洪水>

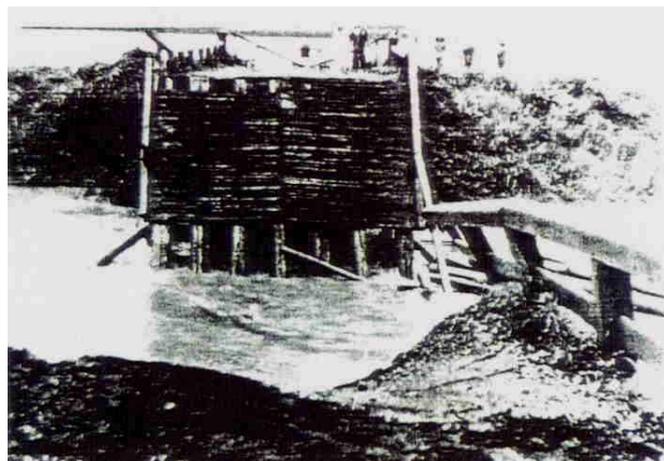


右岸大塚町付近の浸水状況（宮崎市）



流出寸前の赤星橋
（都城市）

源野橋の流失
（都城市・横市川）

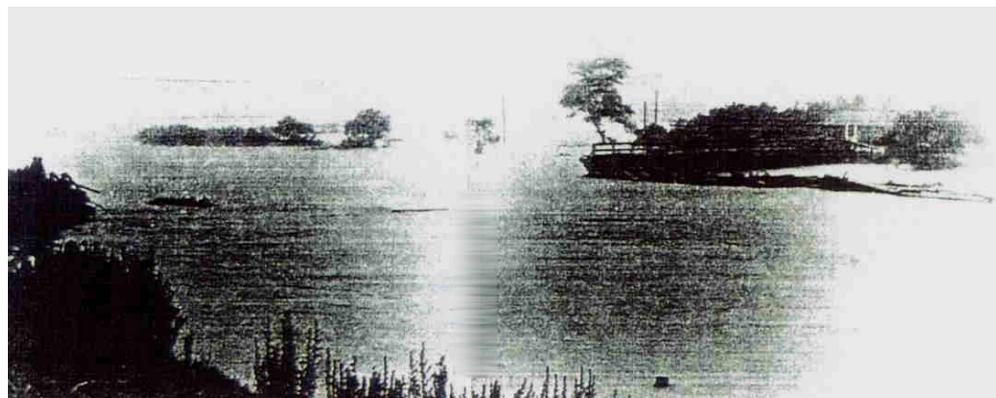


<昭和29年（1954年）9月洪水>



軒先まで浸水した家
（高岡町）

流出した高松橋（宮崎市）



流出する二巖寺橋（都城市）

(4) 昭和57年（1982年）8月25～27日洪水

台風第13号が宮崎市付近を通過し、日向灘を北上したため、宮崎県下全域は暴風雨域に入り、25日～27日にかけて各地で大雨を降らした。

大淀川上流の三股で51mm、青井岳45mm、本庄川上流の田代八重42mm、須木44mmの時間雨量を記録し、総雨量も三股642mm、青井岳492mm、田代八重558mm、須木439mmとなった。

河川の水位も、26日22時には宮崎観測所で警戒水位3.70mを突破し、27日6時には最高水位5.40mを記録し、支川本庄川の嵐田観測所でも警戒水位3.60mを突破し、27日4時には最高水位5.24mを記録した。

流域では人的被害はなかったものの、家屋半壊18戸、床上浸水264戸、床下浸水463戸に及んだ。



提供：宮崎日日新聞社

<昭和57年（1982年）8月洪水>



下小松地区
(8/000右岸付近)
浸水状況

下小松地区
(8/000右岸付近)
浸水状況



下小松地区
(8/000右岸付近)
浸水状況

(5) 平成5年（1993年）8月1～2日洪水

前線の活発化に伴い、九州南部地方は大雨となった。大淀川流域では7月31日1時ごろより降り出した雨が断続的に降り続き、1時間に岳下で62mm、青井岳63mm、樋渡69mm降ったのを始め、8月1日の16時から17時の1時間に83mmを最高に流域全般で大雨が降り続いた。また、総雨量でも巢之浦の699mmを最高に、樋渡605mm、四家534mm、御池661mm等の降雨があり、最大3時間雨量でも樋渡の175mmを最高に、比曾木野166mm、御池152mmを記録した。

平成5年8月豪雨（1993年）による降雨は流域全般にわたり大雨となり、各水位観測所で警戒水位を越す出水となった。

この洪水による被害は死者1人、負傷者2人、家屋の全壊12戸、半壊2戸、床上浸水771戸、床下浸水789戸に及んだ。



提供：宮崎日日新聞社

<平成5年（1993年）8月洪水>



青柳川流域
宮崎市大塚町
高松橋方向を望む



宮崎市小松地区

(6) 平成9年（1997年）9月12～16日洪水

台風第19号の接近に伴い宮崎県全域が大雨となった。

大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、1時間に末吉で27mm、比曾木野で35mm、青井岳で36mm、また、三股では16日2時から3時の間に69mmを最高に大淀川上流域全般で大雨が降った。また、3時間雨量でも巢之浦137mm、霧島176mm、三股179mmを記録し、総雨量では青井岳515mm、槻木469mm、霧島836mm、三股873mmを記録した。

この雨により、大淀川全川で警戒水位を突破し、最高水位が岳下で5.31m、高岡で7.08m、柏田で8.22mと過去最高の水位を記録した。

関係市町村の被害は、死者2人、負傷者3人、家屋の全・半壊25戸、床上・床下浸水は985戸に及んだ。

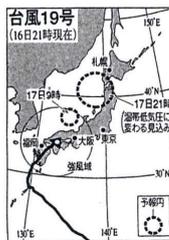
台風19号 県内豪雨、河川はんらん

7万6500人に避難勧告



酒谷川の増水で住宅が孤立し、消防署員らにボートで救出される市民
—16日午前10時20分

1人死亡
1人負傷
床上・床下
浸水985戸



死者	1人
行方不明者	1人
負傷者	3人
全壊家屋	5棟
床上浸水	172棟
床下浸水	454棟

濁流 迫る土砂 襲う



捜索... 県内自然の... 16日午前11時、大淀川上流で発生した土石流が、大淀川中流に到達し、濁流が激しく、高層ビルが倒壊した。...

提供：宮崎日日新聞社

<平成9年（1997年）9月洪水>



宮崎市大塚地区

宮崎市福島地区



宮崎市高岡地区

<平成9年（1997年）9月洪水>



宮崎市高岡地区

宮崎市瓜田地区



(7) 平成17年(2005年)9月4～6日洪水

大型で非常に強い台風第14号は宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら、九州の西の海上をゆっくりとした速度で通過し、山地部を中心に総雨量が1,000mmを超える記録的な豪雨が発生した。県内でも記録的な豪雨をもたらし、連続雨量は青井岳で1,144mm、霧島1,374mmに達するなど、3日間で年間降水量の1/3超を記録した。

この雨により、基準地点柏田で9.89m、上流樋渡地点で10.65mと計画高水位を上回る観測史上最高水位を記録する等、大規模洪水の発生により大淀川水系の広範囲で洪水氾濫による多くの浸水被害が発生し、大淀川下流部の宮崎市・国富町・綾町等をはじめ、浸水面積3,321ha、浸水家屋4,706戸(床上3,834戸、床下872戸)に及ぶ甚大な被害が発生した。

<平成17年（2005年）9月洪水>



都城市金田地区



都城市高城町有水地区



宮崎市高岡町内山地区



宮崎市高岡町麓地区



宮崎市瓜生野地区



宮崎市下小松地区

(8) 令和4年(2022年)9月18～19日洪水

台風第14号に伴い、17日から19日にかけて、九州東部を中心に広範囲に強い雨域がかかった。宮崎県では18日22時頃に最接近となり、18日昼前から19日未明にかけて局地的に猛烈な雨が降った。大淀川流域においては、特に大淀川上流で猛烈な雨が降り、岳下雨量観測所では24時間雨量で観測史上最大である375mm、末吉雨量観測所においても24時間雨量で観測史上最大である269mmの降雨量を記録した。

この雨により、基準地点柏田で8.49m、岳下水位観測所では観測史上最高水位を更新する5.50mを記録し、浸水面積1,437ha、浸水家屋304戸(床上203戸、床下101戸)に及ぶ内水被害が発生した。

<令和4年（2022年）9月洪水>



都城市金田地区



都城市高城町石山地区



都城市下川東地区



都城市太郎坊地区



宮崎市糸原地区



宮崎市瓜生野地区

表4-1(1) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		日雨量	最高水位	流量	
昭和11年 7月22～23日 (暴風雨)	台風が九州西部の海上を通過した影響で宮崎県では22日朝から23日にかけて強い雨が断続的に続いた。県下の雨量は、西米良から都城盆地にかけて最も多く400mmを記録し、宮崎では最高水位5.58mに達した。大淀川では高松橋が流出し、本町橋が破損する等、流域内で大きな被害が生じた。	柏田上流域 266mm 嵐田上流域 296mm	宮崎 5.58m 柏田 6.00m 高岡 6.60m 嵐田 6.10m	柏田 不明 嵐田 不明	※県下の被害 死者 3名 負傷者 2名 家屋全壊 6戸 家屋半壊 7戸 家屋流出 7戸 家屋浸水 5173戸
昭和18年 9月18～20日 (台風第26号)	台風第26号が宮崎県に接近して、日向灘を北上したため、18日昼近く頃から20日にかけて各地に大雨をもたらした。各地点の雨量は都城447mm、宮崎494mmを記録し、流域では莫大な被害が生じた。	柏田上流域 342mm 嵐田上流域 303mm	高岡 7.69m 嵐田 6.28m	柏田 不明 嵐田 不明	※県下の被害 死者 114名 負傷者 161名 行方不明 1名 家屋全壊 567戸 家屋半壊 1165戸 家屋流出 508戸 床上浸水 9361戸
昭和24年 8月14～16日 (台風第9号)	台風第9号が九州南部に接近し、都城盆地を通過したため、宮崎県では15日夜半頃から風雨が次第に強くなり、14日より降り始めた降雨は都城435mm、須木755mmを記録した。台風第9号は九州南部に上陸した後、非常に遅い速度で進行したため、大淀川では風雨による被害が甚大であった。	柏田上流域 253mm 嵐田上流域 346mm	高岡 6.02m	柏田 不明 嵐田 不明	※県下の被害 死者 7名 負傷者 15名
昭和29年 9月10～13日 (台風第12号)	台風第12号の接近によって、宮崎県では11日午後から風雨が次第に強くなった。9月10日より降り始めた降雨は都城で679mmを記録し、各地点の水位は13日早朝に警戒水位に達した。大淀川では増水のため、小戸橋、高松橋が流出し、ところどころで築堤が決壊して、流域では多大な被害が生じた。	柏田上流域 253mm 嵐田上流域 308mm	岳下 4.55m 高岡 7.77m 宮崎 6.40m 嵐田 5.52m	柏田 不明 嵐田 2399m ³ /s	死者 5名 負傷者 10名 家屋全壊 72戸 家屋半壊 215戸 家屋流出 28戸 床上浸水 3173戸 床下浸水 5303戸
昭和46年 8月26～30日 (台風第23号)	台風第23号による降雨は宮崎県の南部では27日早朝から始まり、30日に台風が通過後まで続いた。尾鈴山系及び鰐塚山系で1,000mmを越える豪雨になった。上流岳下で29日18時に4.45m、中流高岡で29日23時に5.20m、下流宮崎で30日3時に5.50m、支川本庄川嵐田で30日4時に4.34mの最高水位を記録し、警戒水位を大きく上回った。	柏田上流域 230mm 嵐田上流域 414mm	岳下 4.45m 乙房 6.60m 高岡 5.40m 柏田 7.59m 宮崎 5.50m 嵐田 4.34m	柏田 5353m ³ /s 嵐田 2123m ³ /s	負傷者 4名 家屋全壊 4戸 家屋半壊 6戸 床上浸水 294戸 床下浸水 1083戸
昭和57年 8月24～27日 (台風第13号)	台風第13号が宮崎市附近を通過し、日向灘を北上したため、県下全域が暴風雨域に入り、25～27日にかけて各地に大雨を降らした。大淀川上流の三股51mm、青井岳45mmの時間雨量を記録し、総雨量も三股642mm、青井岳492mmを記録した。大淀川上流地区の水位は、26日15時頃から次第に上昇し始め26日22時には最高水位4.50mを記録した。支川本庄川の嵐田でも、27日4時には最高水位5.24mを記録した。	柏田上流域 285mm 嵐田上流域 383mm	岳下 4.50m 乙房 6.66m 樋渡 8.75m 高岡 6.36m 柏田 8.13m 嵐田 5.24m	柏田 7136m ³ /s 嵐田 2243m ³ /s	家屋半壊 18戸 床上浸水 264戸 床下浸水 463戸

表4-1(2) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況	
		日雨量	最高水位	流量		
平成 1年 7月24～ 8月3日 (台風第11号)	台風第11号が九州の南部に上陸し、西部海上を通過したため、台風をとりまく東側の非常に強い雨雲が県内に入ってきた。27日午後から次第に雨脚が強まり28日0時から9時までに鰐塚山272mm、都城232mm、宮崎200mmを記録する豪雨となった。大淀川上流の水位は27日22時頃から次第に上昇し始め、岳下では28日4時30分に警戒水位を突破し、28日8時に最高水位4.45mを記録した。また、支川本庄川の嵐田では28日3時に警戒水位を突破し、28日8時に最高水位5.41mを記録した。	柏田上流域 292mm 嵐田上流域 383mm	岳下 4.44m 乙房 7.14m 樋渡 8.40m 高岡 5.97m 柏田 7.74m 嵐田 5.41m	柏田 6123m ³ /s 嵐田 2365m ³ /s	家屋半壊 62戸 床上浸水 79戸 床下浸水 323戸	
平成 2年 9月27～29日 (台風第20号)	台風第20号が九州の南部をかすめて日向灘を北上したため、強雨域が県の中・南部に広がり、時間雨量は宮崎で18時に68mmを最強に、1時間20～60mmの強雨が6～7時間続いた。大淀川上流の水位は9月29日13時頃から次第に上昇し始め、岳下では29日19時には警戒水位を突破、29日19時には最高水位4.91mを記録、高岡でも29日17時には警戒水位を突破し、21時最高水位7.17mを記録した。	柏田上流域 183mm 嵐田上流域 122mm	岳下 4.91m 乙房 7.49m 樋渡 9.61m 高岡 7.17m 柏田 7.75m 嵐田 4.21m	柏田 6254m ³ /s 嵐田 961m ³ /s	行方不明者 1名 負傷者 5名 家屋全壊 2戸 家屋半壊 57戸 床上浸水 1187戸 床下浸水 1908戸	
平成 5年 7月31日 ～8月2日 (前線)	前線の活発化に伴い、九州南部地方では大雨となった。大淀川流域では7月31日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、1時間に岳下で62mm、青井岳63mm、樋渡69mm降ったのを始め、8月1日の16時から17時の1時間に83mmを最高に、流域全般で大雨が降り続いた。また、総雨量でも巢ノ浦の699mmを最高に、樋渡605mm、四家534mm、御池661mm等の降雨があり、最大3時間雨量でも樋渡の175mmを最高に比曾木野166mm、御池152mmを記録した。今回の8.1豪雨による降雨は流域全般にわたり大雨となり、各水位観測所で警戒水位を越す出水となった。	柏田上流域 245mm 嵐田上流域 253mm	岳下 4.90m 乙房 6.55m 樋渡 9.67m 高岡 7.24m 柏田 8.10m 嵐田 4.45m	柏田 7016m ³ /s 嵐田 1459m ³ /s	死者 1名 負傷者 2名 家屋全壊 12戸 家屋半壊 2戸 床上浸水 771戸 床下浸水 784戸	
平成 9年 9月14～16日 (台風第19号)	台風第19号の北上に伴い、宮崎県全域が大雨となった。大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、総雨量では青井岳515mm、槻木469mm、霧島836mm、三股873mmを記録した。今回の台風第19号による豪雨による降雨は、大淀川上流域を中心として大雨となり、岳下、高岡、宮崎、嵐田のすべての基準地点で警戒水位を大幅に越す大出水となった。	柏田上流域 249mm 嵐田上流域 273mm	岳下 5.28m 乙房 7.58m 樋渡 9.90m 高岡 7.07m 柏田 8.21m 嵐田 5.23m	柏田 6875m ³ /s 嵐田 1921m ³ /s	死者 2名 負傷者 3名 家屋全壊 1戸 家屋半壊 24戸 床上浸水 401戸 床下浸水 584戸	
平成16年 8月29～30日 (台風第16号)	台風第16号における大気状態の不安定に伴い、宮崎県地方に大雨をもたらした。大淀川流域では、8月28日0時頃より降り出した雨が、断続的に降り続き、29日9時頃より雨は強まり、総雨量では三股で864mm、霧島で786mmの雨量を記録した。大淀川の水位は岳下、高岡、嵐田において危険水位を超過し、乙房、樋渡、柏田、宮崎で警戒水位を超過した。	柏田上流域 281mm 嵐田上流域 326mm	岳下 5.08m 乙房 7.43m 樋渡 9.80m 高岡 7.34m 柏田 8.16m 嵐田 5.24m	柏田 6476m ³ /s 嵐田 1663m ³ /s	負傷者 7名 家屋全壊 2戸 家屋半壊 5戸 家屋流出 7戸 床上浸水 164戸 床下浸水 203戸	

表4-1(3) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		日雨量	最高水位	流量	
平成17年 9月4～6日 (台風第14号)	<p>大型で非常に強い台風第14号は、山地部を中心に総雨量が1,000mmを超える記録的な豪雨をもたらし、連続雨量は青井岳で1,144mm、霧島1,374mmに達するなど、3日間で年間降水量の1/3超を記録した。</p> <p>この雨により、基準地点柏田で9.89m、上流樋渡地点で10.65mと計画高水位を上回る観測史上最高水位を記録する等、大規模洪水の発生により大淀川水系の広範囲で洪水氾濫による甚大な浸水被害が発生した。</p>	<p>柏田上流域 462mm</p> <p>嵐田上流域 624mm</p>	<p>岳下 4.90m 乙房 7.45m 樋渡 10.65m 高岡 9.01m 柏田 9.89m 嵐田 6.55m</p>	<p>柏田 9468m³/s</p> <p>嵐田 2712m³/s</p>	<p>家屋全壊 908戸 家屋半壊 2147戸 床上浸水 3834戸 床下浸水 872戸</p>
令和4年 9月18～19日 (台風第14号)	<p>台風第14号に伴い、17日から19日にかけて、九州東部を中心に広範囲に強い雨域がかかった。大淀川流域においては、特に大淀川上流で猛烈な雨が降り、岳下雨量観測所では24時間雨量で観測史上最大である375mm、末吉雨量観測所においても24時間雨量で観測史上最大である269mmの降雨量を記録した。</p> <p>この雨により、基準地点柏田で8.49m、岳下水位観測所では観測史上最高水位を更新する5.50mを記録し、内水被害が発生した。</p>	<p>柏田上流域 329mm</p> <p>嵐田上流域 448mm</p>	<p>岳下 5.50m 乙房 7.71m 樋渡 - 高岡 7.68m 柏田 8.49m 嵐田 6.38m</p>	<p>柏田 7080m³/s</p> <p>嵐田 2453m³/s</p>	<p>床上浸水 203戸 床下浸水 101戸</p>

4-2 治水事業の沿革

大淀川における明治以前の治水事業は、舟路維持を兼ねて下流部を中心にごく僅か行われたが、その後明治・大正にかけても、主だった事業はなかった。

本格的な改修工事は昭和2年（1927年）に直轄事業として着手したことに始まる。

昭和2年（1927年）に着手した第一次工事は本庄川合流点下流で計画高水流量を5,500 m³/sとするものであったが、相次ぐ戦争により予定どおりの進行が見られず、昭和18年（1943年）9月の直轄事業着手以降最大の洪水により大災害を被った。

第二次工事は昭和18年（1943年）9月の洪水をきっかけとして、都城市を中心とした上流域の直轄改修区域を追加するとともに、従来の築堤に加え下流部に導流堤及び突堤を施工した。昭和28年（1953年）に全川にわたる計画の再検討を行い、計画高水流量を宮崎地点で7,000m³/s及び樋渡地点で4,000m³/sとそれぞれ改定した。その後の昭和28年（1953年）西日本を襲った洪水を契機に綾南（昭和33年（1958年）竣工）、綾北（昭和35年（1960年）竣工）の両多目的ダムを建設などの第三次工事を行った。

昭和39年（1964年）に着手した第四次工事は昭和29年（1954年）8月及び9月の相次ぐ台風の来襲により、甚大な被害が発生したことにより、宮崎地点における基本高水のピーク流量を7,500m³/sとし、このうち既設2ダムに加え新たに岩瀬ダムを加え、計画高水流量を7,000m³/sとし、捷水路の施工及び水衝部への護岸の設置に着手した。

この後、新河川法の施行により、第四次工事を踏襲する形で昭和40年（1965年）4月に工事実施基本計画が策定された。

この計画に基づき、岩瀬ダムの建設（昭和42年（1967年）竣工）、高木捷水路の開削、堤防の拡築及び護岸の設置等を実施した。

大淀川の上流域は、霧島山などの火山噴出物が堆積した脆弱な地質を呈しており、土砂災害の発生が危惧されることなどから、昭和25年度（1950年度）より上流域の沖水川において直轄砂防事業に着手し、昭和48年度（1973年度）に完成した。

また、昭和41年（1966年）、43年（1968年）、47年（1972年）の度重なる災害を契機に、上流域の高崎川では昭和48年度（1973年度）より直轄砂防事業を実施している。

一方、河口部については、昭和58年（1983年）に高潮堤防を概成させた後、平成7年（1995年）1月に発生した阪神・淡路大震災の教訓を受け、地震に伴う基礎地盤の液状化により、堤防が沈下した場合の浸水による二次被害のおそれがある区間については、耐震対策を進めた。

さらに、過去の出水時において漏水が発生した箇所、及び地質条件等から漏水のおそれがある区間については、漏水対策を実施した。

こうした治水事業を展開してきたものの、昭和57年（1982年）8月、平成5年（1993年）8月及び平成9年（1997年）9月に当時の計画高水流量と同程度又はそれ以上の洪水が発生し、甚大な浸水被害も頻発していたため、これらの出水を契機に平成9年の河川法改正を受け、平成15年（2003年）2月には基準地点柏田における基本高水のピーク流量を9,700m³/s、このうち綾南ダム、綾北ダム、岩瀬ダム等と併せ流域内の洪水調節施設により1,000m³/sを調節して計画高水流量を8,700m³/sとする「大淀川水系河川整備基本方針」が策定された。

平成17年（2005年）9月には、観測史上最大となる洪水が発生し、河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、同事業内容を踏まえた河川整備計画を平成18年（2006年）3月に策定した。その後、平成17年（2005年）9月洪水が基本高水を上回る洪水であったため、平成28年（2016年）5月に、基準地点柏田における基本高水のピーク流量を11,700m³/sとし、このうち岩瀬ダムや遊水地等の流域内の洪水調節施設により2,000m³/sを調節して計画高水流量を9,700m³/sとする「大淀川水系河川整備基本方針」を変更し、平成30年（2018年）6月に平成17年（2005年）洪水と同規模の洪水を安全に流下させることを目標に、河川整備計画を変更した。これに基づき、堤防、河道掘削、遊水地、ダム再生等の整備を行っている。

4-3 流域治水対策の取組

(1) 流域治水プロジェクトに基づく流域治水の推進

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

1) 森林整備・治山の取組

水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進している。

大淀川流域における水源林造成事業地は、約80箇所（森林面積約2,300ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施している。

2) 雨水貯留施設（雨水貯留タンク）

令和4年に発生した台風第14号による水害は都城市に大きな被害をもたらしており、流域治水の考え方である雨水貯留施設の設置を推進し氾濫を防ぐ・減らす対策を進めている。都城市では雨水貯留施設設置推進事業を実施しており、雨水貯留施設の設置に対し補助金制度を設けている。

各家庭において、雨水貯留施設を活用し雨水を溜め込む事により雨水が急激に河川等に流出することを緩和し、災害の軽減を図っている。



図4-1 森林整備による浸透能力の向上（イメージ）



図4-2 治山事業の実施による流出抑制対策



図4-3 雨水貯留タンク設置例

②被害対象を減少させるための対策

平成17年（2005年）9月の台風第14号における大淀川水系の激甚災害緊急特別対策事業の実施に伴い、河川管理者（国、県）と協議し、建築基準法の規定に基づく「宮崎市災害危険区域に関する条例」を制定した。災害危険区域を指定し、指定区域内における建築物の建築を制限している。

また、被害対象を減少させるための対策として、立地適正化計画における防災指針の導入や土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実化を図っている。

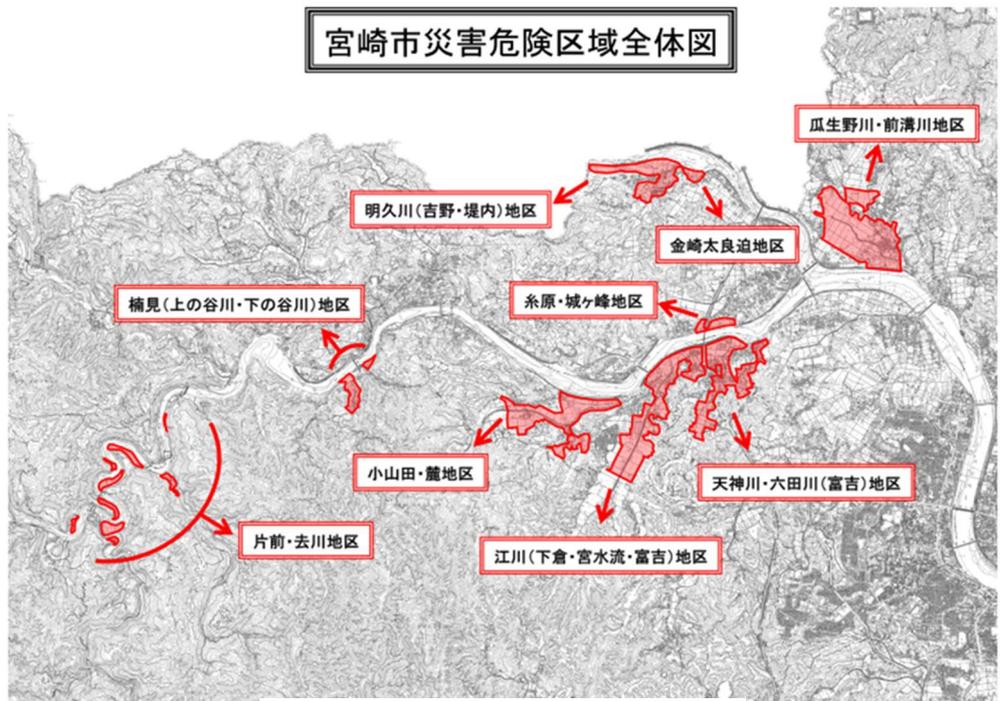


図4-4 宮崎市災害区域全体図

災害リスク	区域・規模	関係法令・計画等	本市で予想される災害の規模
洪水	洪水発生箇所を対象とする（宮崎市洪水ハザードマップで対象としている災害） ・平成13年10月豪雨 ・平成28年9月台風16号 ・平成29年10月台風22号 ・令和元（2019）年9月豪雨	水防法	●洪水指定区域対象河川は、以下のとおり。 （宮崎川(川差事務所と宮崎橋が管轄)）大淀川、木庄川、深草川、一ツ瀬川、三好川、石崎川、八重川、新瀬川、大谷川、屋形川、加計川、吾郎川 ●指定河川 新瀬川、木庄川、深草川（M9.1）、日向川、新瀬川（M9.1）
津波	津波防災地域づくりに関連する法律	●指定河川 ●指定河川 ●指定河川	●指定河川が確保されていない河川や指定河川は、堤防によって防波（遮断）し、堤防は、天候が25%の高さにまで低下すると想定し、一時的に、警戒を厳しめ、警戒区域に指定し、警戒区域の天候を厳格に監視し、警戒区域で「厳戒する（警戒なし）」とする。
土砂災害特別警戒区域	土砂災害特別警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律	●指定河川 ●指定河川 ●指定河川	●指定河川が確保されていない河川や指定河川は、堤防によって防波（遮断）し、堤防は、天候が25%の高さにまで低下すると想定し、一時的に、警戒を厳しめ、警戒区域に指定し、警戒区域の天候を厳格に監視し、警戒区域で「厳戒する（警戒なし）」とする。
土砂災害警戒区域	土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律	●指定河川 ●指定河川 ●指定河川	●指定河川が確保されていない河川や指定河川は、堤防によって防波（遮断）し、堤防は、天候が25%の高さにまで低下すると想定し、一時的に、警戒を厳しめ、警戒区域に指定し、警戒区域の天候を厳格に監視し、警戒区域で「厳戒する（警戒なし）」とする。

災害ハザード情報の整理



各災害リスク・取組を地図上に落とし込み

図4-5 立地適正化計画における防災指針（宮崎市立地適正化計画より）

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策として、各地域の防災リーダーを対象としたマイ・タイムラインの作成支援や各地域での出前講座等を通して防災意識の啓発活動等を実施している。



図4-6 マイ・タイムライン作成支援



図4-7 出前講座の様子

第5章 水利用の現状

5-1 水利用の変遷と現状

1) 発電

大淀川の発電事業は、大正2年（1913年）11月、大淀川支川岩瀬川水系に200kW（現在廃止）の高原発電所を設けたのが最初で、その後、大正15年（1926年）1月に大淀川第一発電所、昭和3年（1928年）に野尻発電所、昭和7年（1932年）には、大淀川第二発電所と続いて発電所が建設された。

その後発電所の建設はなく、戦後、昭和33年（1958年）綾第一南発電所、昭和34年（1959年）綾第二発電所が綾川総合開発の一環として建設された。さらに、昭和42年（1967年）7月には宮崎県により、高さ55.5mの他目的の岩瀬ダムが完成した。

現在における発電所数は16箇所にもものぼる。使用水量の総計は最大時約470m³/s、最大出力は約23万kWである。

2) 農業用水

大淀川流域のかんがい事業は用水路や井堰の改修、揚水機の設置等がその主なもので、水利施設の改善によりその経済効果は著しく向上しつつある。

本流域においては、かんがい用水路とともにため池を併用しているが、上流部には用水路や井堰が多く下流部においてはため池が多く見受けられる。かんがい面積について見ると、大淀川水系の総かんがい面積は約21,400haである。

3) 都市用水

大淀川流域において、大臣管理区間からの取水による上水道を有する市町村は宮崎市の1件のみである。指定区間における上水による水利用は無い。

工業用水については、流域内に大きな工場がなく1件のみである。

5-2 渇水被害と渇水対応の現状

大淀川水系においては、渇水被害の発生は過去において生じていない。

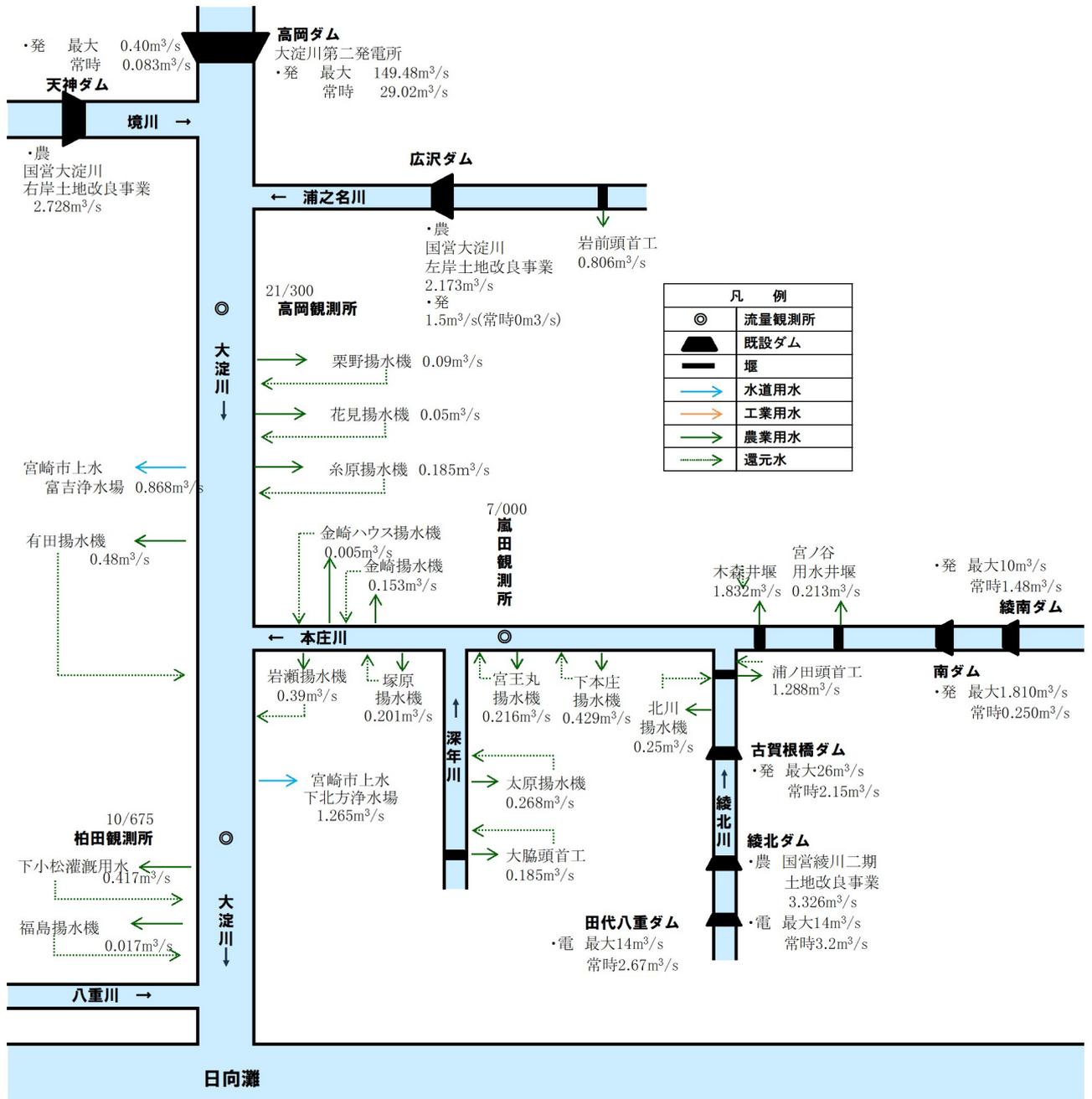


図5-1(1) 水利用模式図（大淀川下流）

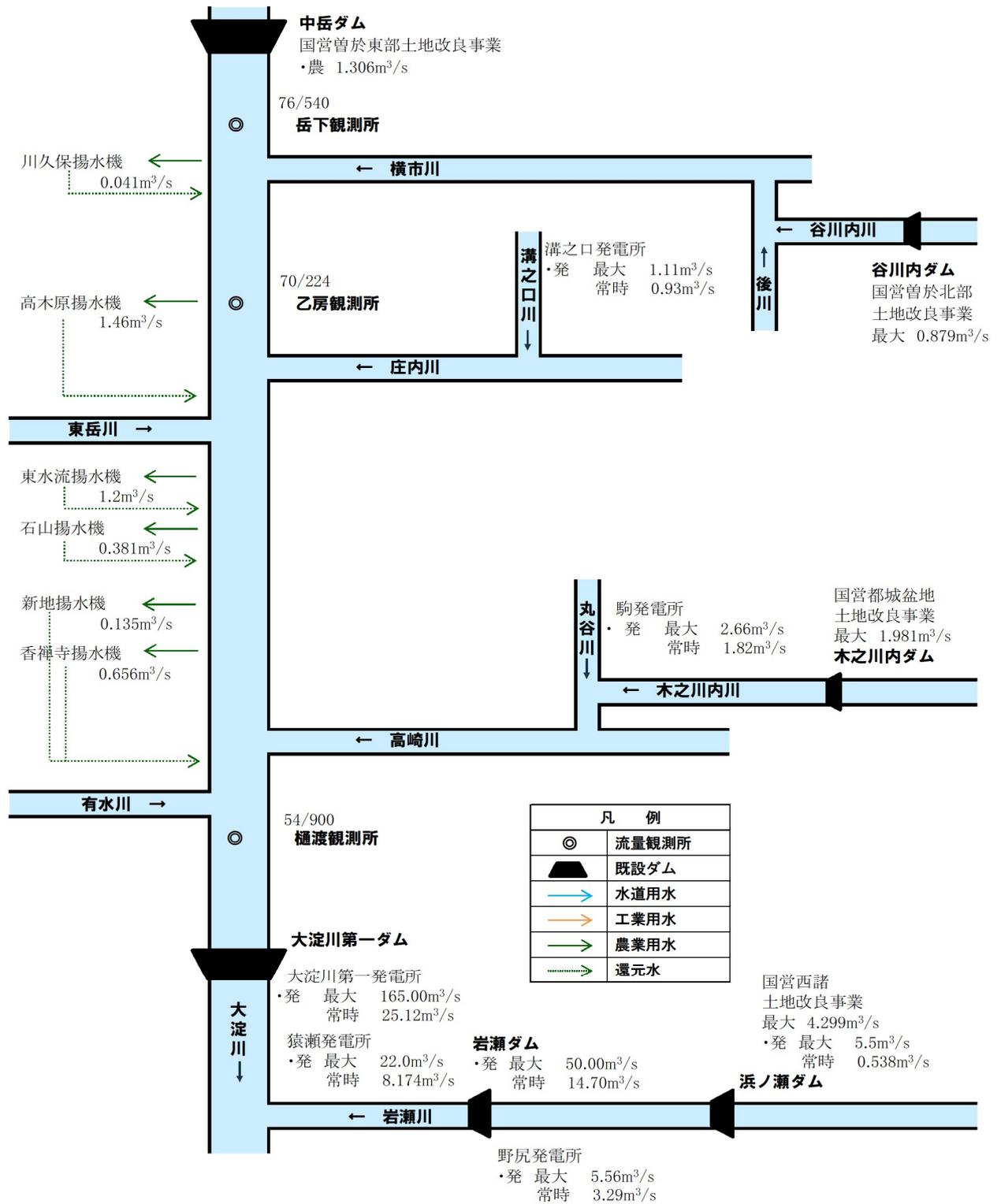


図5-1(2) 水利用模式図 (大淀川上流)

5-3 水利用に係る今後の方向性

大淀川水系では、発電用水、農業用水、都市用水等が取水されている。大淀川流域の大部分は宮崎県に属しており、「宮崎県水道ビジョン（令和2年（2020年）3月、宮崎県）」によれば、人口の減少に伴って水供給量も減少することが予測されている。

しかしながら、農業用水や生活用水・工業用水などの需要を勘案しながら、将来にわたって安定供給に努める必要があり、水資源について、多目的ダムを整備や水源のかん養などにより安定的な確保を図るとともに、有効利用の普及啓発に努めていく必要がある。

第6章 河川の流況と水質

6-1 河川流況

大淀川の主要地点である高岡地点での流況は、下表に示すとおりである。昭和43年（1968年）～令和4年（2022年）までの55年間の平均値を見ると、低水流量が49.45m³/s、濁水流量が33.96m³/sとなっている。

表6-1 (大淀川)高岡〔現況〕地点流況表

単位:m ³ /s							
No	西暦	和暦	豊水流量	平水流量	低水流量	濁水流量	
1	1968	昭和43年	66.69	50.29	43.40		30.24
2	1969	昭和44年	82.92	60.95	52.26		34.50
3	1970	昭和45年	114.06	78.34	54.65		35.22
4	1971	昭和46年	115.73	70.12	51.35		33.47
5	1972	昭和47年	137.58	85.13	70.03		49.50
6	1973	昭和48年	94.20	71.52	57.77		42.83
7	1974	昭和49年	71.99	53.54	41.33		27.62
8	1975	昭和50年	104.08	78.92	59.98		36.92
9	1976	昭和51年	108.31	79.84	61.89		40.53
10	1977	昭和52年	88.23	63.02	49.54		36.24
11	1978	昭和53年	65.22	48.26	39.50		25.71
12	1979	昭和54年	91.71	70.63	45.76		26.52
13	1980	昭和55年	132.78	93.49	71.66		49.86
14	1981	昭和56年	81.36	57.98	49.56		39.74
15	1982	昭和57年	88.74	70.58	49.88		30.94
16	1983	昭和58年	145.32	83.47	56.85		41.61
17	1984	昭和59年	80.23	59.43	47.91		37.44
18	1985	昭和60年	110.59	72.68	50.51		28.39
19	1986	昭和61年	74.30	54.34	42.50		33.01
20	1987	昭和62年	120.54	80.97	58.31		30.12
21	1988	昭和63年	97.30	61.85	44.10		35.35
22	1989	平成元年	105.04	66.93	45.71		34.20
23	1990	平成2年	102.04	71.79	55.50		29.22
24	1991	平成3年	116.16	74.69	58.36		42.33
25	1992	平成4年	97.96	64.52	51.96		32.68
26	1993	平成5年	200.25	92.21	46.04		32.64
27	1994	平成6年	65.88	50.05	38.80		27.53
28	1995	平成7年	73.60	46.33	32.62		22.24
29	1996	平成8年	80.62	52.13	33.13		23.11
30	1997	平成9年	85.51	53.84	40.52		27.42
31	1998	平成10年	107.66	70.81	49.10		35.88
32	1999	平成11年	欠測	欠測	欠測		欠測
33	2000	平成12年	104.21	67.25	44.61		28.31
34	2001	平成13年	91.81	62.27	49.70		39.57
35	2002	平成14年	欠測	欠測	欠測		欠測
36	2003	平成15年	105.27	70.60	53.98		39.48
37	2004	平成16年	欠測	欠測	欠測		欠測
38	2005	平成17年	欠測	欠測	欠測		欠測
39	2006	平成18年	欠測	欠測	欠測		欠測
40	2007	平成19年	63.13	41.75	34.53		27.09
41	2008	平成20年	81.68	49.76	33.79		24.78
42	2009	平成21年	57.24	38.33	30.44		19.41
43	2010	平成22年	113.15	62.62	43.59		23.97
44	2011	平成23年	91.30	53.20	27.48		19.73
45	2012	平成24年	144.09	81.03	59.16		36.97
46	2013	平成25年	79.05	62.30	52.34		39.01
47	2014	平成26年	136.08	89.08	61.76		42.34
48	2015	平成27年	145.53	88.26	67.05		45.90
49	2016	平成28年	146.28	96.86	72.42		45.11
50	2017	平成29年	欠測	欠測	欠測		欠測
51	2018	平成30年	欠測	欠測	欠測		欠測
52	2019	令和元年	107.98	63.44	51.32		41.80
53	2020	令和2年	116.53	72.15	48.35		36.96
54	2021	令和3年	118.33	66.16	48.49		34.19
55	2022	令和4年	105.53	65.75	44.27		32.58
近10ヶ年 (H25～R4)	最大		146.28	96.86	72.42		45.90
	最小		79.05	62.30	44.27		32.58
	平均		119.41	75.50	55.75		39.74
近20ヶ年 (H15～R4)	最大		146.28	96.86	72.42		45.90
	最小		57.24	38.33	27.48		19.41
	平均		107.41	66.75	48.60		33.95
近30ヶ年 (H5～R4)	最大		200.25	96.86	72.42		45.90
	最小		57.24	38.33	27.48		19.41
	平均		105.25	65.05	46.24		32.44
近40ヶ年 (S58～R4)	最大		200.25	96.86	72.42		45.90
	最小		57.24	38.33	27.48		19.41
	平均		105.16	66.27	47.73		33.04
近50ヶ年 (S48～R4)	最大		200.25	96.86	72.42		49.86
	最小		57.24	38.33	27.48		19.41
	平均		102.25	66.85	48.89		33.66
全資料55ヶ年 (S43～R4)	最大		200.25	96.86	72.42		49.86
	最小		57.24	38.33	27.48		19.41
	平均		102.37	67.07	49.45		33.96
1/10流量 (1968～2022.5位/48ヶ年)			66.69	49.76	33.79		23.97

6-2 河川水質

1) 環境基準

大淀川水系における水質汚濁に係る環境基準の類型指定は表6-2、図6-1に示すとおりである。

表6-2(1) 大淀川環境基準設定状況（宮崎県知事告示）

水域名	水域の範囲	水域 類型	達成 期間	環境基準点	指定 年月日	
大淀川上流	たげした 岳下 橋より上流（鹿児島県境まで）	A	ロ	いまさこ 今迫 橋	S48. 1. 20	
大淀川中流	岳下橋から高崎川合流点まで	B	ロ	しびた 志比田橋		
大淀川下流	高崎川合流点より下流 （左岸人江を除く）	A	ロ	樋渡橋		
		A	ロ	轟ダム		
		A	ロ	あいおい 相生 橋		
庄内川上流	せきのお 関之尾滝より上流	AA	イ	しもつつみ 下堤 橋		
庄内川下流	関之尾滝より下流	A	ロ	うのしま 鶴の島橋		
まるたに 丸谷 川上流	渡司川合流点より上流	AA	イ	おおふるかわ 大古川 橋		
丸谷川下流	渡司川合流点より下流	A	ロ	くすすれ 楠牟礼橋		
わたし 渡司川		AA	イ	なかきりま 中霧島 橋		
高崎川上流	ゆのもと 湯之元川合流点より上流	AA	イ	はなどう 花堂 橋		
高崎川下流	湯之元川合流点より下流	A	ロ	つるさき 鶴崎 橋		
沖水川上流	みまた 三股橋より上流	AA	イ	かじやま 梶山 橋		
沖水川下流	三股橋より下流	A	ロ	しもおきみず 下沖水 橋		
ひがしだけ 東岳 川上流	やまのくち 山之口 橋より上流	AA	イ	ののうと 野々宇都橋		
東岳川下流	山之口橋より下流	A	ロ	東岳橋		
岩瀬川		A	ロ	岩瀬橋		
きかい 境 川		AA	イ	やながわ 築川 流量観測所		
うらのみよう 浦之名 川		AA	イ	かわぐち 川口 橋		
綾北川上流	ゆのたに 湯之谷川合流点より上流	AA	イ	ごんげん 権現 橋		
綾北川下流	湯之谷川合流点より下流	A	ロ	いりの 入野橋		
本庄川上流	うわばた 上畑 橋より上流	AA	イ	上畑橋		
本庄川下流	上畑橋より下流	A	ロ	綾南川橋、柳瀬橋		
深年川		A	ロ	おおたばら 太田原 橋		
つじのどう 辻の堂 川		A	ロ	うしろたに 後谷 橋		S49. 4. 30
いしごおり 石水 川	まかた たねだ すのうら 真方川、種子田川及び比良ノ浦川を含む	A	イ	なかのしま 中ノ島 橋		H7. 4. 1
萩原川	やすひさ くすれ てらぼしら 安久 川、崩 川及び寺柱 川を含む	A	イ	きのまえ 木之前橋		
三名川	かりやばる きたまた ながやま 仮や原 川、北俣 川及び永山 川を含む	AA	イ	じんのした 陣のト 橋下流 200m 左岸	H8. 4. 1	
たにのき 谷之木川	谷之木川に流入する河川を含む	AA	イ	ちやま 茶摩川橋		
すみよこ 炭床 川	きのした きと 木下 川及び佐渡川を含む	A	イ	しもこまき 下小牧 橋		
花の木川	富吉川及び樋口川を含む	A	イ	まくらぎ 桜木 橋		
じょうのした 城のト 川	大沢津川等の河川を含む	A	イ	たごのした 田子のト 橋	H9. 4. 1	
年見川	年見川放水路を除く	A	ロ	宮丸橋	H16. 4. 1	

表6-2(2) 大淀川環境基準設定状況（鹿児島県知事告示）

水域名	水域の範囲	水域 類型	達成 期間	環境基準点	指定 年月日
大淀川上流	宮崎県境から上流	A	ロ	新割田橋	S48. 6. 29
横市川上流	宮崎県境から上流	A	ロ	宝来橋	
溝之口川上流	庄内川合流点から上流	A	イ	中谷橋	

注) 達成期間の分類は イ：直ちに達成、ロ：5年以内で可及的速やかに達成。

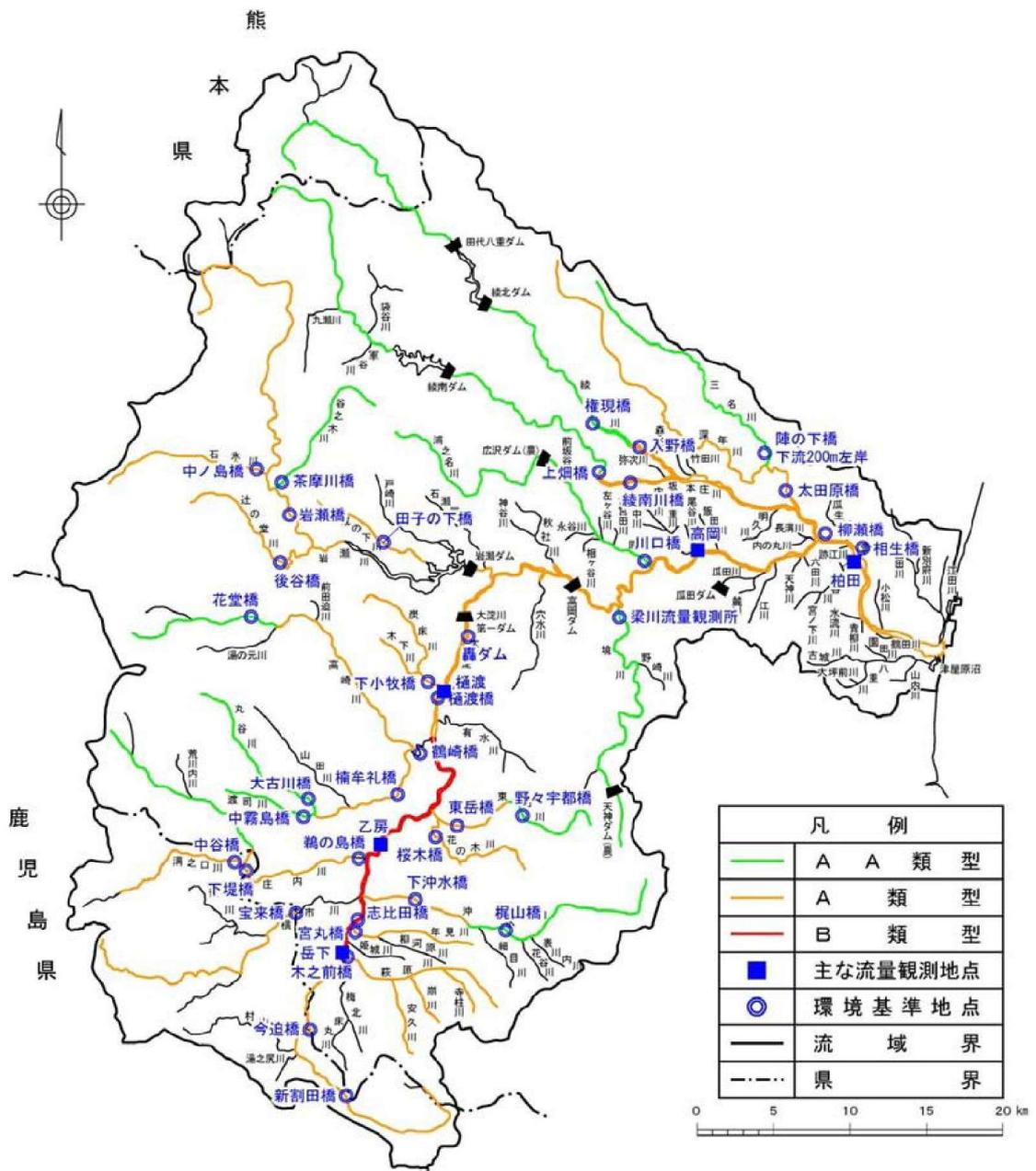


図6-1 環境基準類型指定状況図

2) 水質の現状

大淀川上流域の下水道普及率が低く（令和4年（2022年）末、約44%）、また、都城市を中心とした上流域は畜産業が盛んな地域であること等から、上流域の水質は下流域よりも相対的に高い数値で推移している。また、大淀川水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）が平成16年（2004年）7月に策定、平成31年（2019年）2月に変更し、関係機関で水質改善に取り組んでいる。

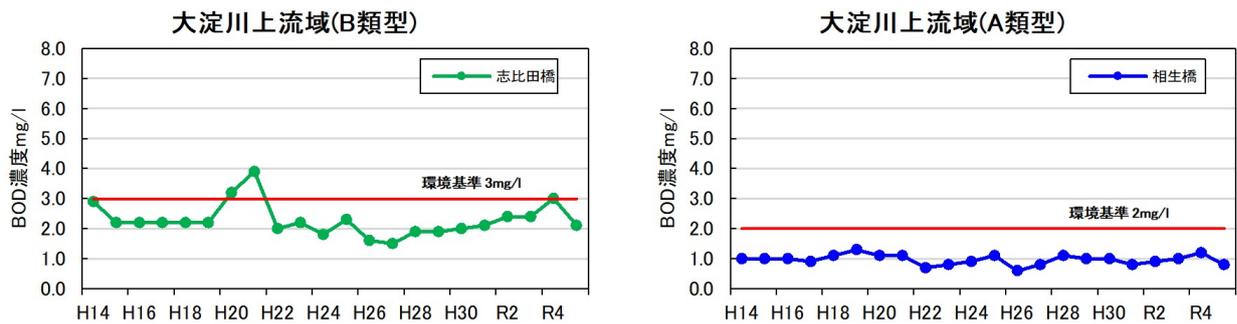


図6-2 大淀川本川における水質（BOD75%値）の経年変化

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

平成31年度（2019年度）における大淀川の年間河川空間利用者数（推定）は、約142.0万人である。

利用形態別にみると散策等（49%）が最も多く、次いでスポーツ（41%）、釣り（6%）、水遊び（4%）となっている。平成26年度（2014年度）と比較すると、散策等が増加し、スポーツ、釣りが減少している。

また、利用場所別にみると、高水敷（66%）が最も多く、次いで堤防（24%）、水際（8%）、水面（2%）の順になっている。平成26年度（2014年度）と比較すると、高水敷が増加し、堤防、水際が減少している。

図7-1 年間河川空間利用状況（大淀川）

区分	項目	年間推計値(万人)			利用状況の割合		
		H21	H26	H31	平成21年度	平成26年度	平成31年度
利用形態別	スポーツ	42.2	97.5	58.4			
	釣り	18.3	17.6	8.5			
	水遊び	1.7	7.9	5.3			
	散策等	76.0	95.9	69.8			
	合計	138.2	218.9	142.0			
利用場所別	水面	2.2	4.7	2.8			
	水際	18.4	23.9	11.0			
	高水敷	84.9	133.7	94.1			
	堤防	32.7	56.6	34.1			
	合計	138.2	218.9	142.0			



カヌー



サッカー



ゴルフ



釣り



散策等



おおよどがわりビング2024

7-2 高水敷地の利用状況

河川区域の面積は、2,250.45ha、そのうち、利用可能な高水敷地は408.20haである。

高水敷地における河川占用施設の面積は305.48haで高水敷地（3号地）の約7割を占めている。

表7-1 河川区域流面積内訳

	低水敷地 (1号地)	高水敷地 (3号地)	堤防敷地 (2号地)	計 (ha)	割合 (%)
官有地	1,201.70	398.10	445.75	2,045.55	90.9
民有地	127.00	10.10	0.00	137.10	6.1
不明地	66.30	0.00	1.50	67.80	3.0
計	1,395.00	408.20	447.25	2,250.45	—
割合(%)	62.0	18.1	19.9	—	100.0

(出典：河川管理統計報告 国土交通省 R6)

表7-2 高水敷占用施設内訳

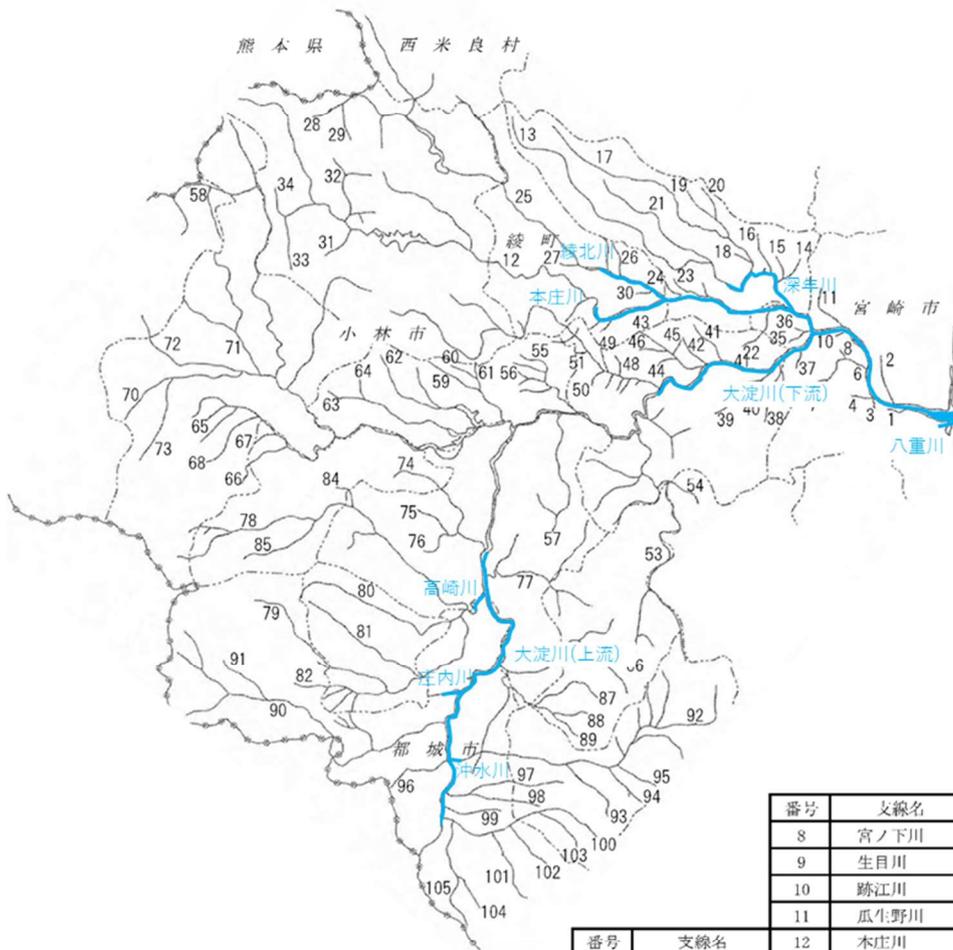
種類	箇所数	面積 (ha)
ゴルフ場	1	34.42
公園・緑地	9	71.16
運動場	6	9.32
採草地	6	190.63
田畑	0	0.00
駐車場	0	0.00
その他	1	0.05
計	23	305.58

(出典：河川管理統計報告 国土交通省 R6)

7-3 内水面漁協

大淀川水系の全ての大臣管理区間で、漁協権が設定されている。

内共第14号



番号	支線名	番号	支線名		
20	永山川	63	城の下川		
21	後川	64	大沢津川		
22	明久川	65	辻の堂川		
23	竹田川	66	木場田川		
24	森永川	67	大丸川		
25	綾北川	68	洗出川		
26	湯の谷川	69	谷之木川		
27	下の谷川	70	石氷川		
28	仁田の谷川	71	真方川		
29	南俣谷川	72	種子田川		
30	弥次川	73	巢の浦川		
31	軍谷川	74	炭床川		
32	袋谷川	75	木下川		
33	九瀬川	76	佐渡川		
34	八重尾谷川	77	有水川		
35	内の丸川	78	高崎川		
36	長溝川	79	丸谷川		
37	天神川	80	木之川内川		
38	江川	81	山田川		
39	瓜田川	82	渡司川		
40	麓川	83	馬渡川		
41	飯田川	84	前田迫川		
42	尾谷川	85	湯の元川		
43	内山川	86	東岳川		
44	原田川	87	花の木川		
45	板ヶ八重川	88	富吉川		
46	田中川	89	樋口川		
47	浦の名川	90	庄内川		
48	古宮田川	91	荒川内川		
49	佐ヶ谷川	92	沖水川		
50	相ヶ谷川	93	細目川		
8	宮ノ下川	51	永谷川	94	花谷川
9	生目川	52	前坂谷川	95	表川内川
10	跡江川	53	境川	96	横市川
11	瓜生野川	54	野崎川	97	年見川
12	木庄川	55	秋社川	98	柳河原川
13	深牟川	56	神谷川	99	姫城川
14	木脇川	57	穴水川	100	萩原川
15	柔鶴川	58	岩瀬川	101	安久川
16	宮本川	59	石瀬戸川	102	崩川
17	三名川	60	大平山川	103	寺柱川
18	仮ヤ原川	61	青木川	104	梅北川
19	北俣川	62	戸崎川	105	床丸川

図7-2 漁協権

第8章 河道特性

8-1 河道の特性

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、岩瀬川等を合わせ東に転流して宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら宮崎市において日向灘に注いでいる流域面積2,230km²、幹川流路延長107kmに及ぶ九州屈指の河川である。

1) 上流部 (53k7~79k)

大淀川の上流部は、河床勾配が約1/1,000程度であり、シラスによって都城盆地が形成され、谷底平野に広がる市街地と田園地帯を穏やかに流下している。



大淀川上流部

2) 中流部 (28k1~53k7)

大淀川の中流部は、河床勾配が約1/200~1/800程度であり、日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部を蛇行しながら流下している。



大淀川中流部

3) 下流部 (0k~28k1)

大淀川の下流部は、河床勾配が約1/1,000~1/5,000程度であり、沖積層が広く分布した宮崎平野が形成され、宮崎平野に入った後は瀬や淵を交互に形成しながら流下している。



大淀川下流部

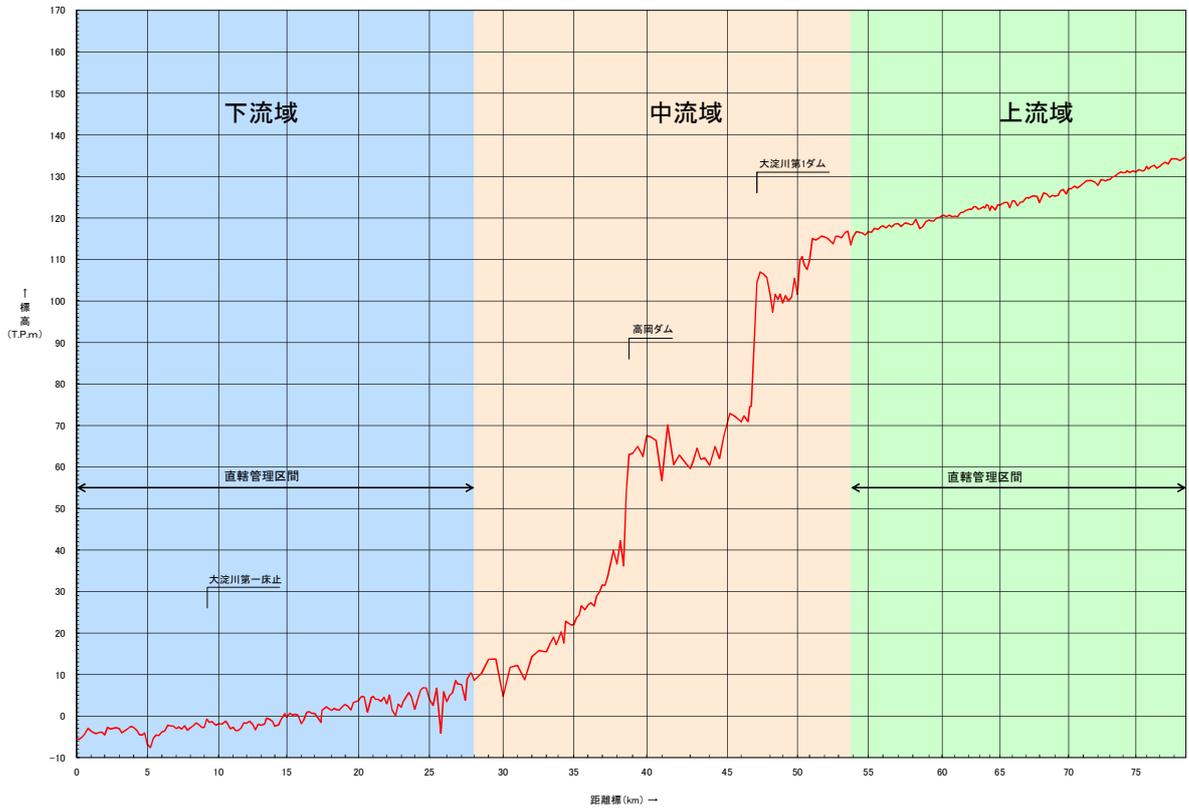


図8-1 大淀川の河床勾配 (最深河床高)

8-2 河床変動の経年変化

大淀川本川は、昭和から平成中期までは、砂利採取や河川改修等による河床変動が見られ、近年は出水等の影響により一部堆積傾向が見られるものの、全体的には安定傾向である。

支川についても、若干の変動は見られるものの、全体的には安定傾向である。

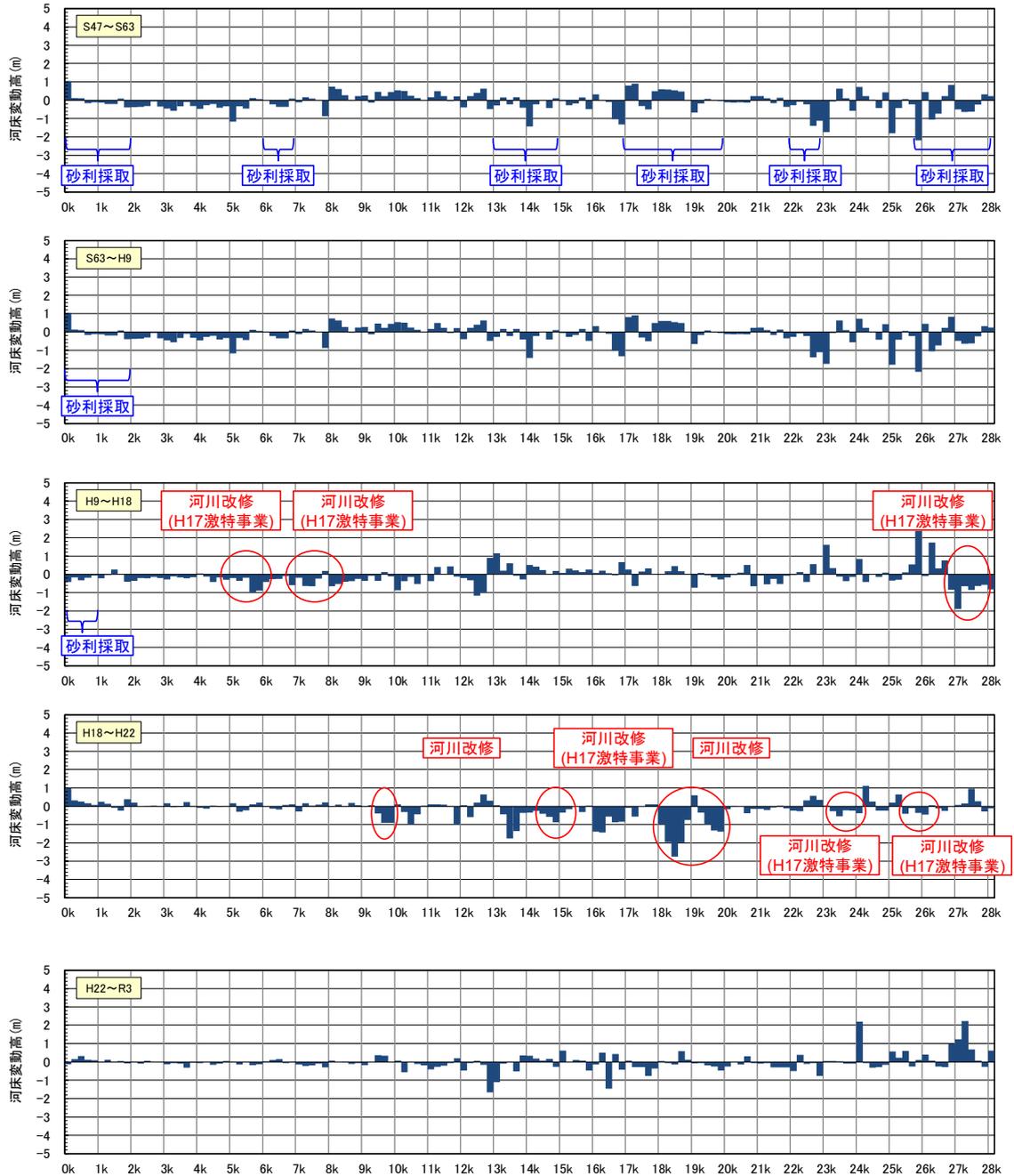


図8-2 大淀川下流平均河床高変化量の経年変化（昭和47年（1972年）～令和3年（2021年））

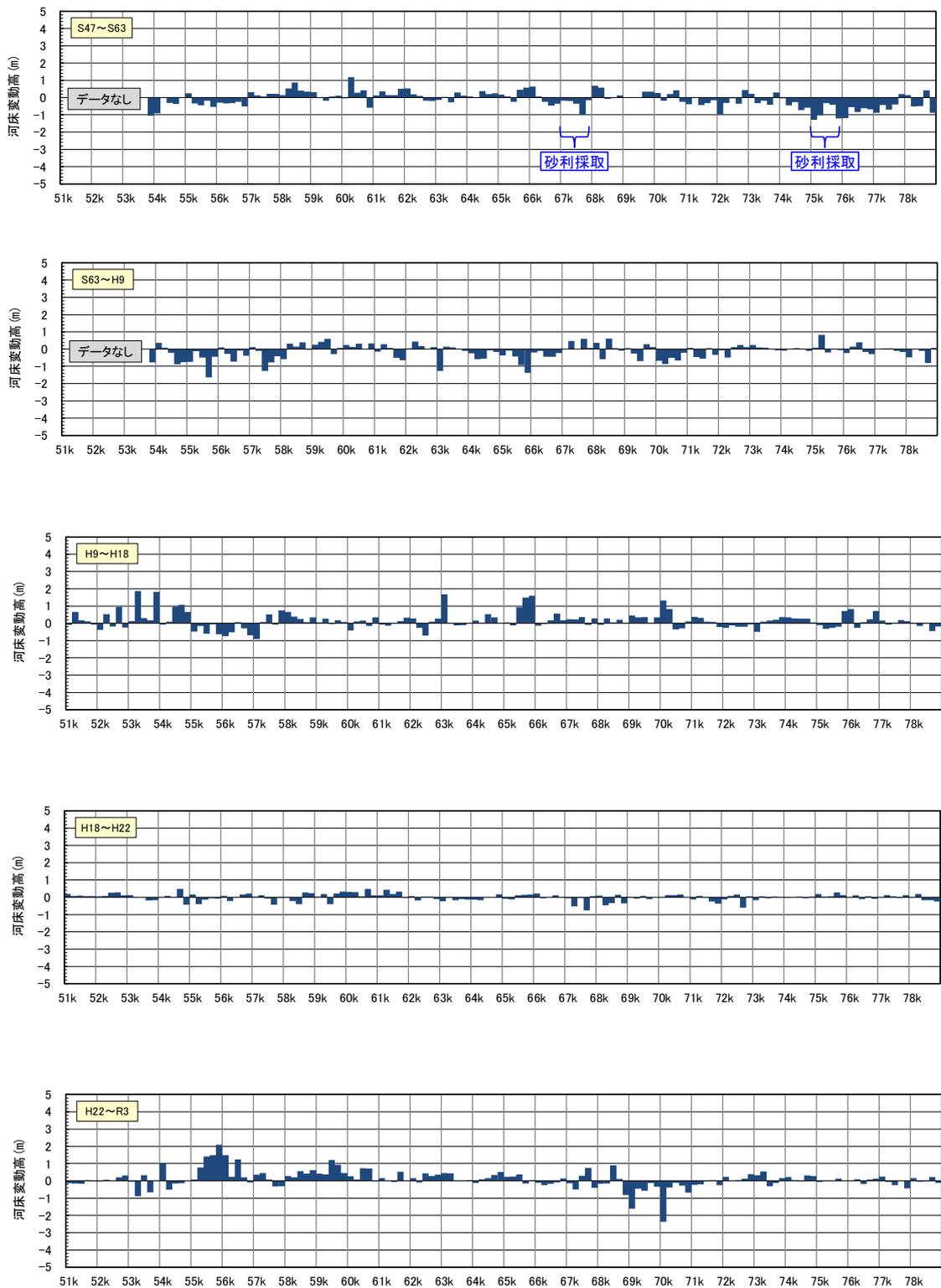


図8-3 大淀川上流平均河床高変化量の経年変化（昭和47年（1972年）～令和3年（2021年））

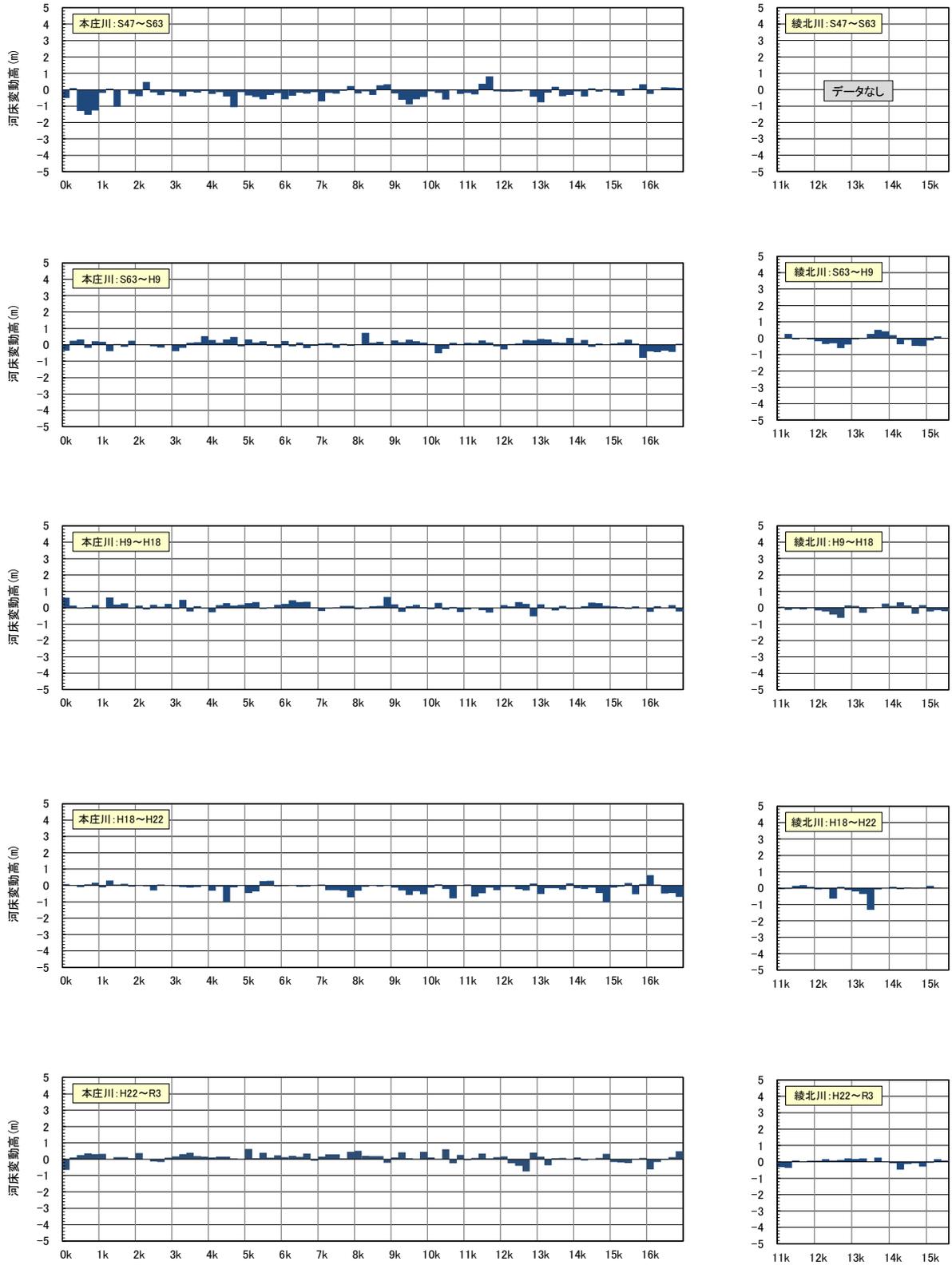


図8-4 本庄川・綾北川平均河床高変化量の経年変化（昭和47年（1972年）～令和3年（2021年））

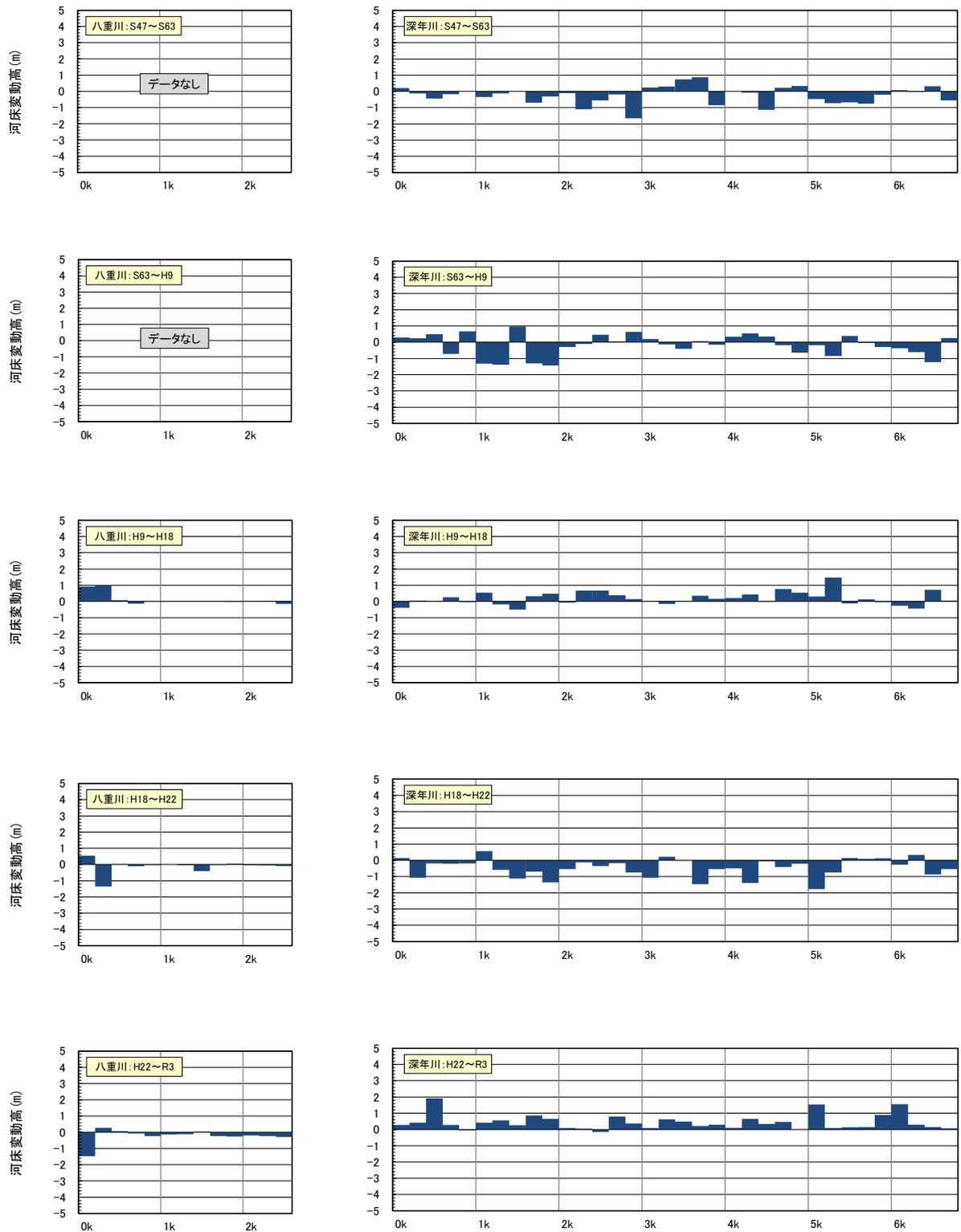


図8-5 八重川・深年川平均河床高変化量の経年変化（昭和47年（1972年）～令和3年（2021年））

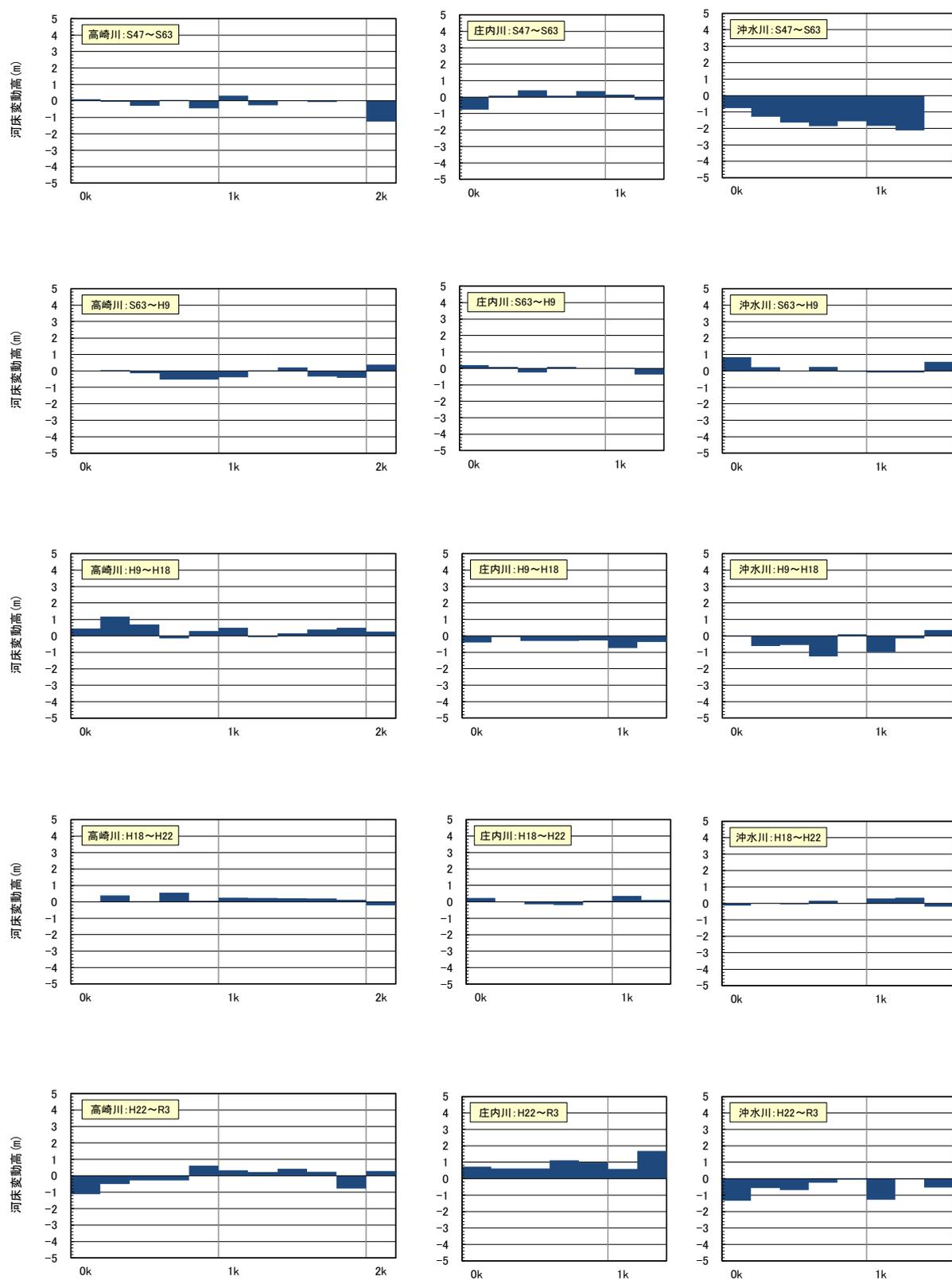


図8-6 高崎川・庄内川・沖水川平均河床高変化量の経年変化（昭和47年（1972年）～令和3年（2021年））

第9章 河川管理の現状

9-1 河川管理区間

大淀川は、幹川流路延長107kmの一級河川であり、以下の区間を国が管理している。

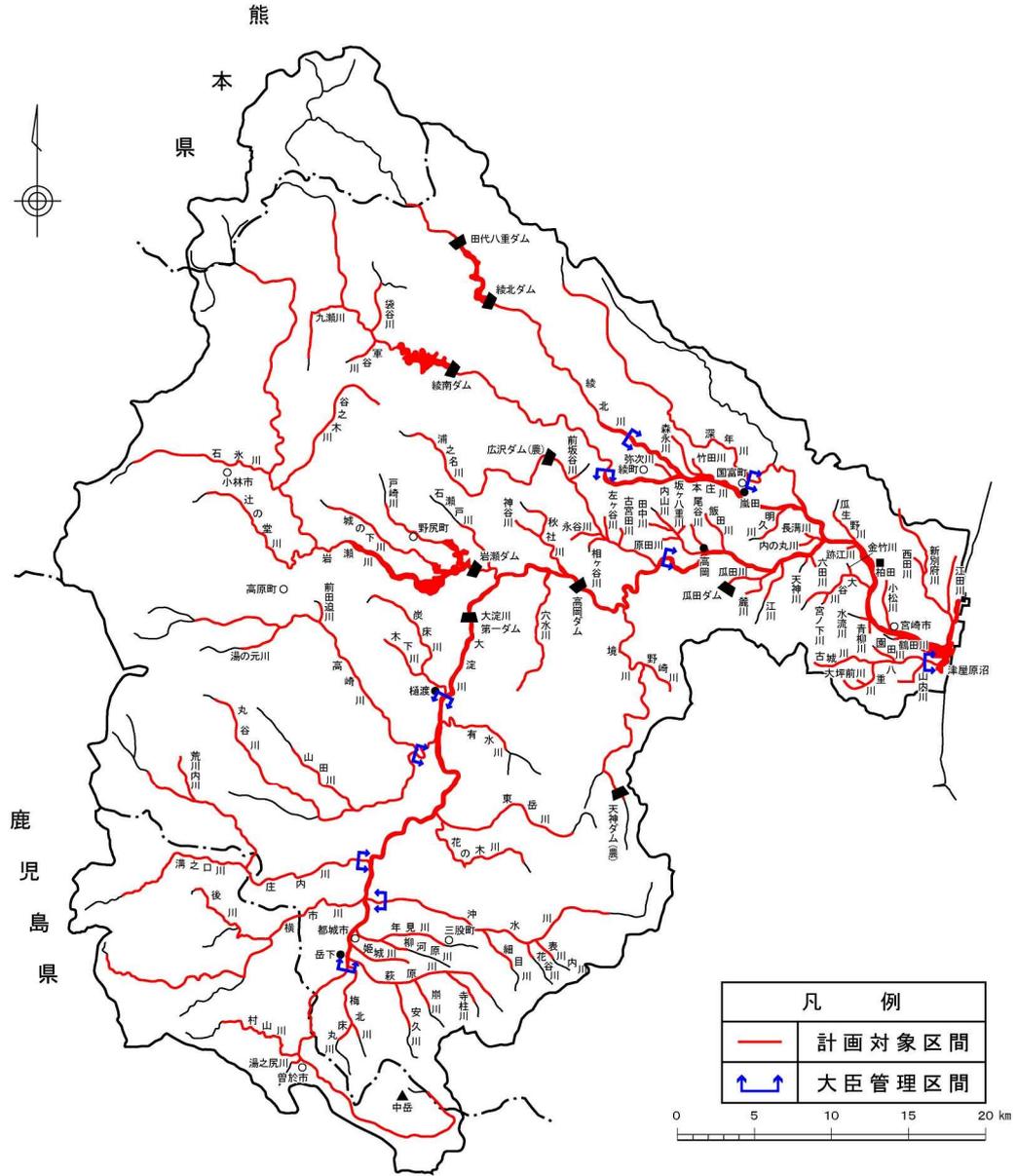


図9-1 大淀川水系の国管理区間

表9-1 大淀川水系の国管理区間

河川名	上流端	下流端	区間延長 (km)
大淀川下流	宮崎県宮崎市高岡町浦之名 ふるかわ古川4576番の1地先の国道 ゆのきぎき柚の木崎橋	海	28.4
大淀川上流	左岸 都城市大字 ^{ごじつちよう} 五十町字瀬戸上1294番の2の乙地先 右岸 都城市大字五十町字 ふちわき ^{なかがわら} 淵脇5294番の3地先	左岸 宮崎県都城市高崎町 なわぜ ^{なわぜ} 縄瀬下小牧4,188番地先 右岸 宮崎県都城市高城町 ありみずかみ ^{ありみずかみ} おおくぼ有水上大久保1,223番の92地先	23.4
八重川	宮崎市大字田吉字 ^{にしだ} 西田1115番の1地先の農道橋下流端	大淀川への合流点	2.0
本庄川	左岸 宮崎県東諸県郡綾町大字入野字 ^{よつえ} 四枝607番の1地先 右岸 宮崎県東諸県郡綾町大字入野字 ^{なかがわら} 中川原118番の2地先	大淀川への合流点	16.7
深年川	左岸 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄字 ^{いしはら} 石原7795番地先 右岸 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄字中川原7186番地先	本庄川への合流点	6.6
綾北川	左岸 宮崎県東諸県郡綾町大字北俣字 ^{おたに} 尾谷3709番地先 右岸 宮崎県東諸県郡綾町大字北俣字 ^{うらのた} 裏田1778番の3地先	本庄川への合流点	4.4
高崎川	左岸 宮崎県都城市高崎町縄 ^{なかひら} 瀬中平965番の20地先 右岸 都城市大字岩満町889番の2地先	大淀川への合流点	2.0
庄内川	都城市庄内町字 ^{ひがしむた} 東牟田9,784番の4地先の鉄道橋下流端	大淀川への合流点	1.2
沖水川	左岸 都城市大字川東字下川原2494番地先 右岸 都城市大字川東字 なかおした ^{なかおした} 中尾下4055番地先	大淀川への合流点	1.4
計			86.1

9-2 河川管理施設

1) 堤防

大淀川は、明治19年（1886年）9月洪水及び大正5年（1916年）9月洪水を契機として、昭和2年（1927年）から直轄河川改修を進めてきており、令和5年（2023年）3月末の大臣管理区間における堤防の整備状況は、堤防が必要な区間約147.5kmのうち完成堤防区間は約127.8km（約87%）である。

表9-2 大臣管理区間堤防整備状況

直轄管理 区間延長 (km)	堤防延長(km)				
	堤防必要区間	計画断面 堤防区間	暫定断面 堤防区間	無堤防区間	計
86.1	147.5	127.8	15.2	4.6	295.1

2) 河川管理施設

表9-3 大淀川 国河川管理施設数

堰	水門	床止	排水機場	樋門樋管等	計
0	10	4	8	162	184

9-3 水防体制

1) 河川情報の概要

大淀川では、流域内に国管理の雨量観測所21箇所、水位観測所12箇所を設置し、迅速に情報収集するとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行っている。

また、常に河川の状況等を把握するためのCCTVカメラ（35箇所）を設置し、事務所ホームページ等で閲覧可能としている。

そのほかにも、危機管理型水位計（43箇所）、簡易型河川監視カメラ（19箇所）を設置し、地域の水防活動、地域住民の避難行動等に活用している。

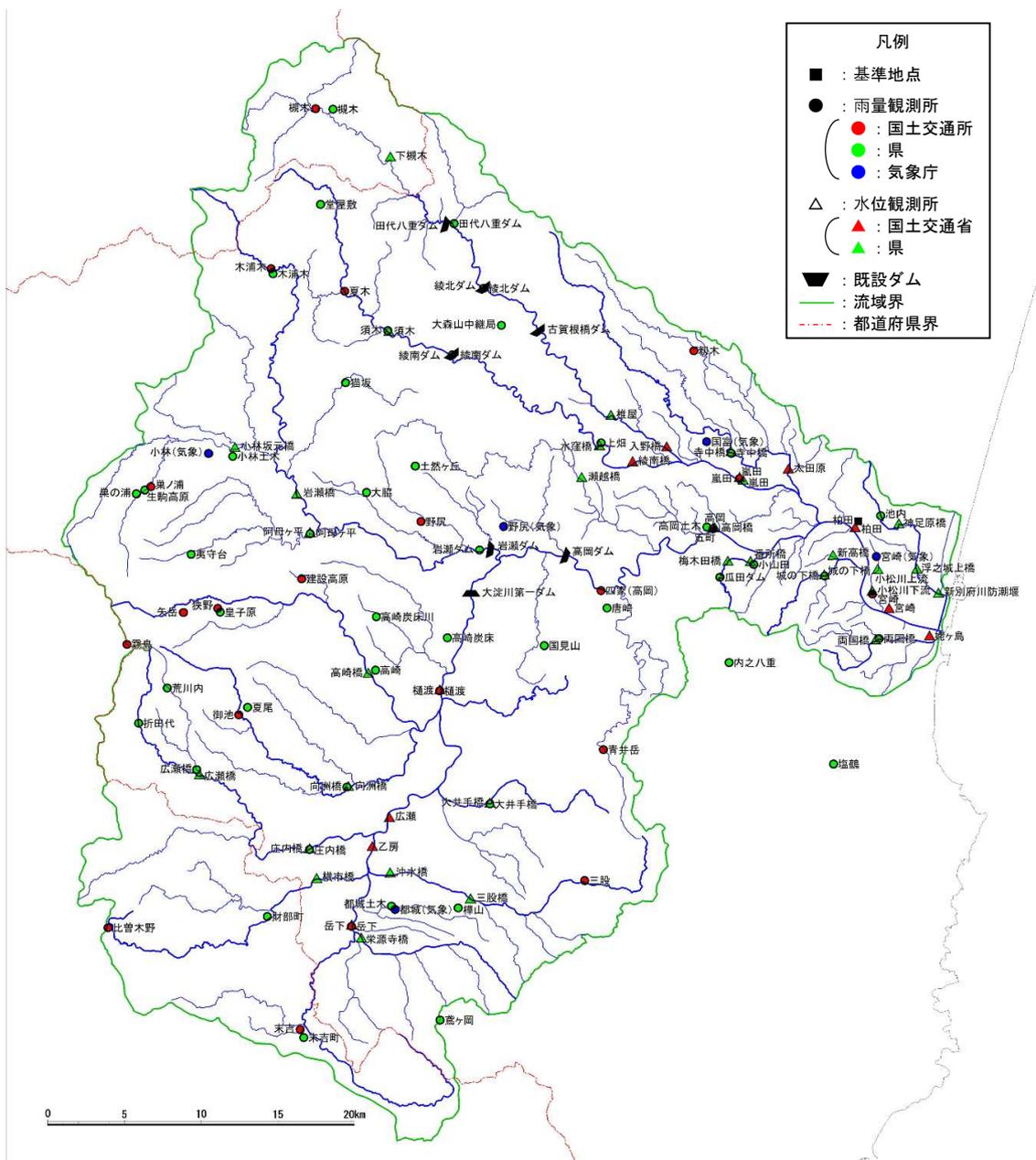
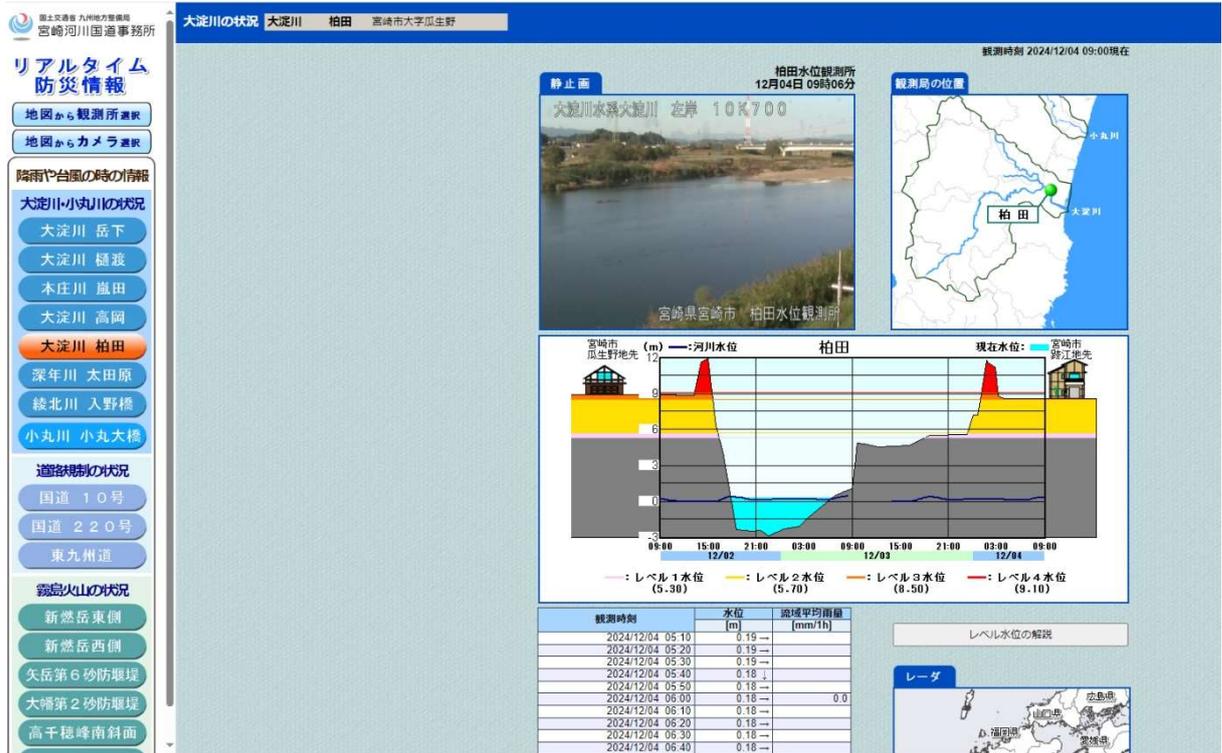


図9-2 大淀川流域水文観測所位置図

(大淀川下流)



(大淀川上流)

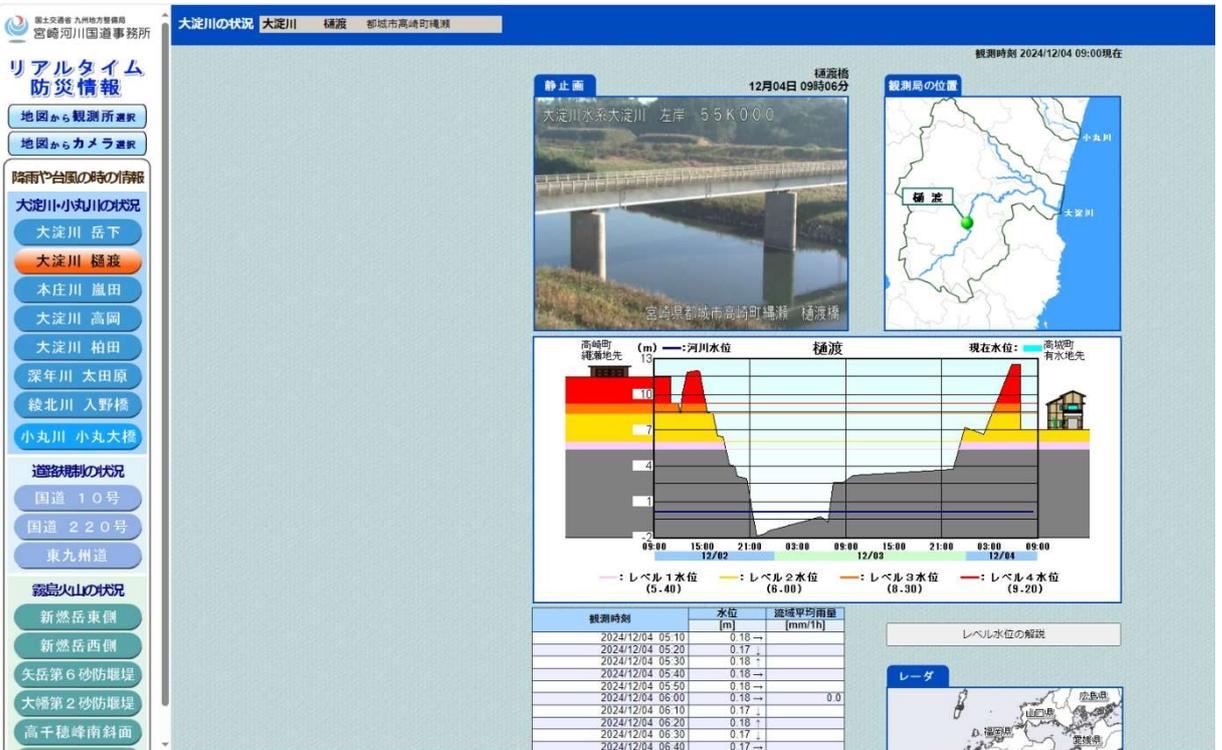


図9-3 CCTVカメラ画像による情報提供状況

【出典：事務所HP】

2) 洪水予報

大淀川、本庄川、庄内川及び沖水川は水防法第10条及び気象業務法14条に基づき、洪水予報業務を実施する洪水予報指定河川に指定（大淀川下流 平成2年（1990年）、大淀川上流、本庄川 平成12年（2000年）、庄内川、沖水川 平成30年（2018年））されている。

洪水予報は宮崎河川事務所と宮崎管区气象台が共同して、河川の氾濫が起こるおそれが高まったと予想されるときに洪水注意報と洪水警報の2種類を発表している。さらに、これらを補足する必要がある際は洪水情報（雨量や水位の予想）を発表している。

3) 水防警報の概要

大淀川には、水防警報対象水位観測所が5箇所（岳下、樋渡、高岡、柏田、嵐田）設置されている。

洪水又は高潮による災害が起こる恐れがある場合に、水位観測所の水位をもとに水防管理団体に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速かつ、的確に行われるよう水防警報を発表している。

表9-4 各基準観測所の基準水位

河川名	観測所名	水防警報	洪水予測	水位周知	零点高 (T.Pm) ※旧測地系	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位
大淀上流	岳下 (都城市)	●	●		135.000	3.20	3.70	4.10	4.80
大淀上流	樋渡 (都城市)	●	●		118.000	5.40	6.00	8.30	9.20
大淀下流	高岡 (宮崎市)	●	●		7.300	5.40	5.80	7.60	8.10
大淀下流	柏田 (宮崎市)	●	●		0.500	5.30	5.70	8.50	9.10
本庄川	嵐田 (国富町)	●	●		8.437	3.90	4.30	4.80	5.20
綾北川	入野橋 (綾町)			●	20.270	2.00	2.20	2.80	3.10
深年川	太田原橋 (国富町)			●	4.181	5.00	5.60	6.40	7.50

(単位：m)

9-4 危機管理の取組

1) 水防連絡会との連携

洪水・高潮等による被害発生の防止又は軽減を行うため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、住民の避難・水防活動等を迅速かつ円滑に行えるよう、大淀川水防連絡会が結成されている。この連絡会により、重要水防箇所の合同巡視、水防団、水防資材の整備状況の把握等を行っている。

また、平成28年（2016年）6月に「大淀川水系水防災意識社会再構築協議会」を組織し、「水防災意識社会」の再構築を目的に国・県・市町等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。



図9-4 水防連絡協議会の様子



図9-5 合同巡視の様子

2) 水質事故訓練の実施

油類や有害物質が河川に流出する水質事故発生時には、速やかに関係機関に事故情報が伝達されるよう連絡体制を確立し、関係機関等と役割分担の上、事故や被害の状況把握、原因物質特定のための調査、オイルフェンスや吸着マットの設置等の対策を行うとともに、必要に応じて事故情報を速やかに公表し、被害の拡大防止に努めている。

平常時については、「大淀川水系水質汚濁防止対策連絡協議会」を通じ、連絡体制の確認、訓練の実施等により、日頃から水質事故への円滑な対応が図れるように努めている。



図9-6 水質汚濁防止対策連絡協議会の様子



図9-7 水質事故を想定した訓練状況

3) 洪水危機管理の取組

「大淀川水系水防災意識社会再構築協議会」において、水害に対する意識を「施設整備により洪水の発生を防止するもの」から「施設では防ぎきれない大洪水は発生するもの」へと根本的に転換し、社会全体でこれに備える「水防災意識社会」の再構築の取組をさらに加速するため、現況施設能力を上回るあらゆる規模の洪水による被害を軽減するためのハード・ソフト一体となった対策について、関係機関の取組を共有し、横断的・総合的に検討の上、密接な連携体制の構築を図っている。

また、想定し得る最大規模の洪水等が発生した場合でも人命を守ることを第一とし、平成28年（2016年）8月には想定最大規模降雨を対象とした浸水想定区域図を作成・公表している。

これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、令和4年（2022年）4月に「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表している。



図9-8 水防災意識社会再構築協議会の様子

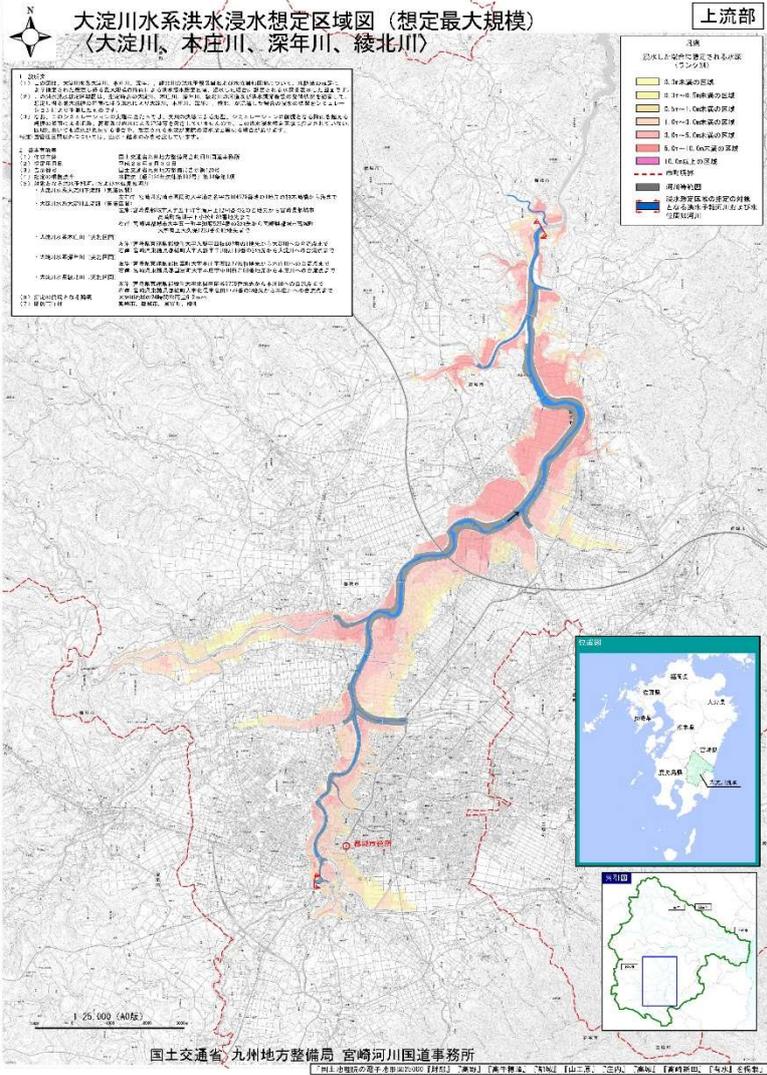
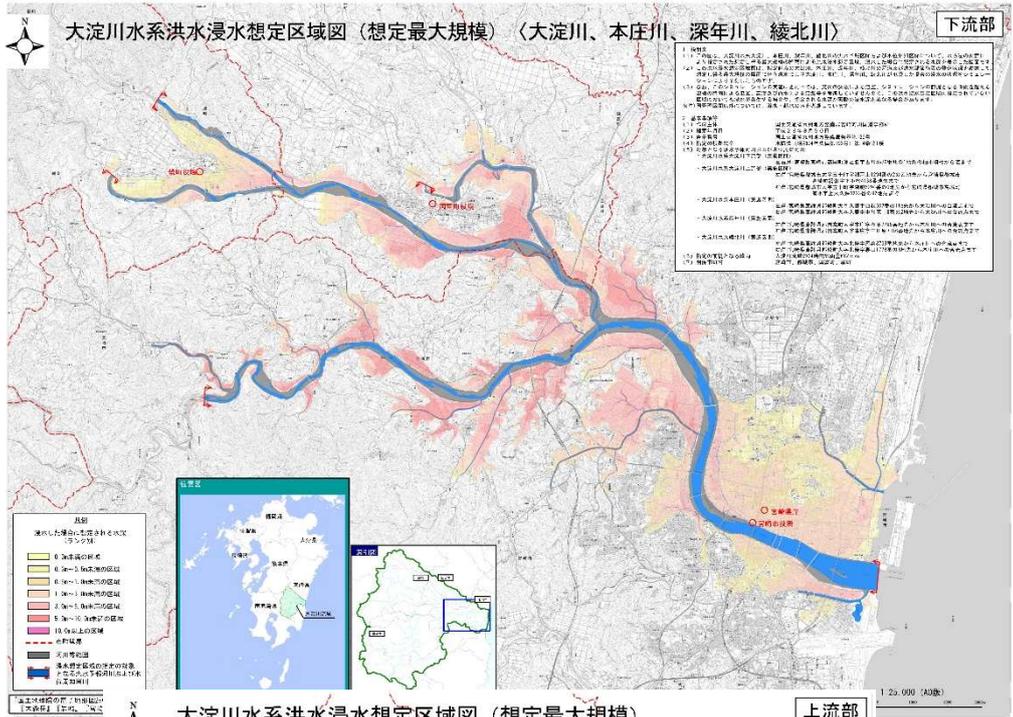


図9-9 大淀川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）
 上段：大淀川下流部 下段：大淀川上流部

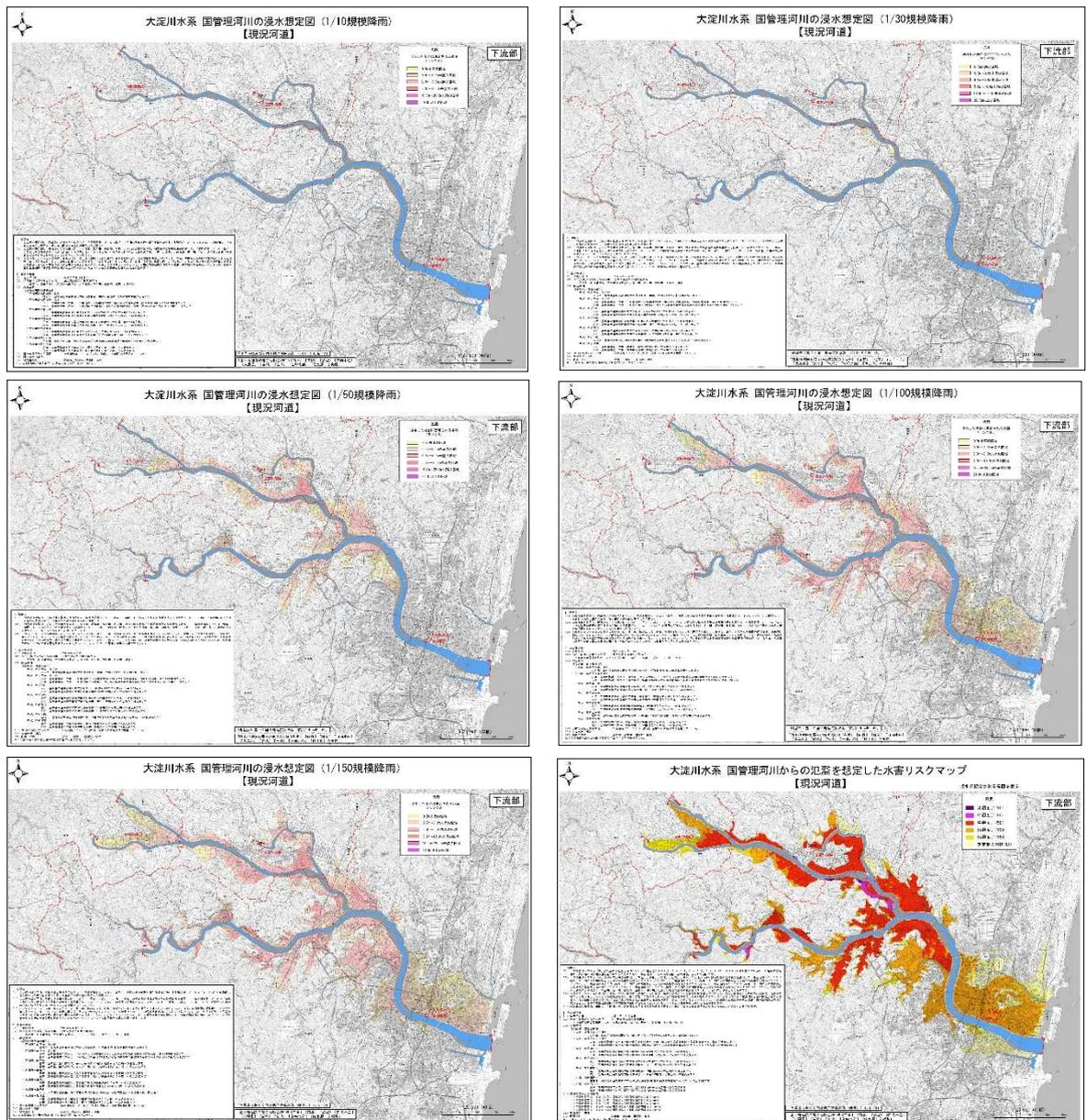


図9-10 確率規模毎の多段階浸水想定図 右下：水害リスクマップ（大淀川下流部）

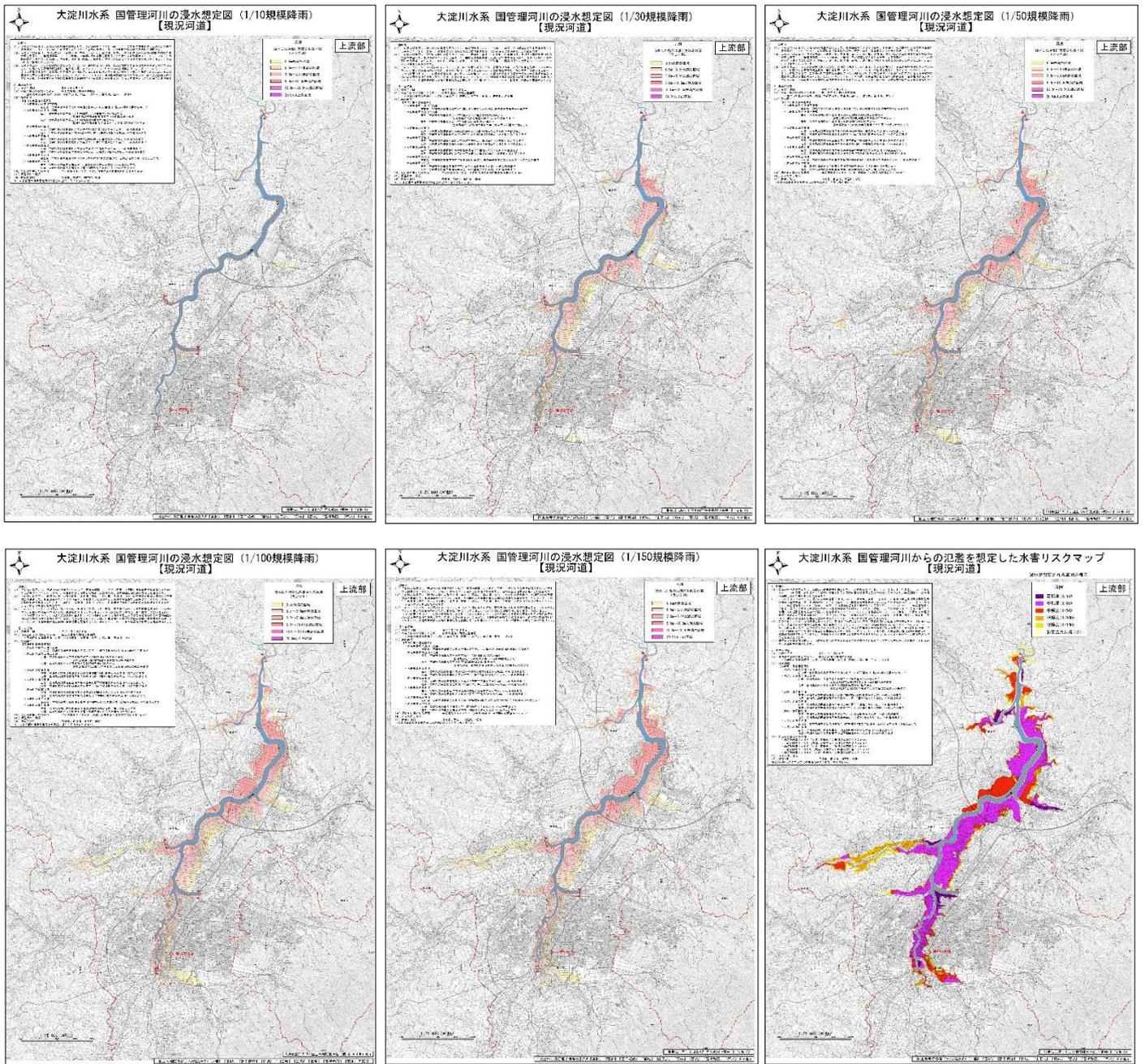


図9-11 確率規模毎の多段階浸水想定図 右下：水害リスクマップ（大淀川上流部）

第10章 地域との連携

大淀川流域内には、河川への情熱や夢、希望をもって14団体もの住民団体が活発に活動している。それぞれが緊密な連携を図りながら、河川協力団体による河川一斉清掃や水辺の安全教室、行政との連携等による河川愛護精神の醸成や環境教育の支援など継続的に行っている。

表10-1 大淀川流域の河川に関連した地域活動（河川協力団体）

活動団体	主な活動地域	主な活動内容等
NPO 法人大淀川流域ネットワーク	大淀川下流 宮崎市	水中で安全に活動するための知識を講義と実技を通して学習できる水辺安全講習会や、河川敷絶滅危惧種の保全活動、児童や市民を対象とした体験型環境学習会等の開催を行っている。また、他の河川団体、国・県・市などの行政機関と連携し大淀川下流の一斉清掃も行っている。
NPO 法人都城大淀川サミット	大淀川上流 都城市	主催している大淀川サミット大会では大淀川の治水、利水、防災、環境について学ぶ場となっており、市民への啓発活動の一環となっている。また、大淀川子どもサミット大会では体験型のブースをつくり、子供たちが楽しみながら環境や治水について学ぶ機会となっている。河川管理者とも連携し「特定外来生物」の駆除活動も行っている。



図10-1 河川一斉清掃活動



図10-2 水辺安全講習会



図10-3 特定外来生物駆除活動



図10-4 体験型環境学習